

使用テキスト

配本年度

『国語科教育法入門』 長谷川清之(明星大学出版部)
 『第2版国語科教育入門』 長谷川清之(明星大学出版部)

2011年度～2017年度
 2018年度～

科目概要

小学校「国語科」教育とは、何をどのように教える教科か。これからの時代に求められる国語力とは何か。国語教育の意義や役割、方法をどう考えるか。国語科教育についての一般的包括的な基礎的な素養を身につけ、国語科教育の実際を考察します。とりわけこれらの社会によりよく生き、自己実現になくはならない、自身の学びとして、国語科教育について実践的に考究します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. これからの時代に求められる国語力について理解する。
2. 国語科教育の意義・内容・方法について一般的な理解する。
3. 母語としての日本語について一般的な理解を図る。
4. 国語科教育の課題について認識を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 国語科教育の意義・目標・内容・方法
2. 日本語の特徴
3. 求められる国語力についての理解
4. 学習指導要領「国語科」の内容について
5. 文学作品(教材)を読むことの意義
6. 説明文(教材)を読むことの意義
7. PISA 調査「Reading Literacy」の定義と特徴と課題
8. 「書くこと」の意義
9. 「話すこと・聞くこと」の意義
10. 国語科と読書
11. 書写の意義
12. 国語科教育の課題

参考文献

「これからの時代に求められる国語力について」 文化審議会答申 平成16年2月3日
 『小学校学習指導要領』文部科学省 東洋館出版社
 『初等国語科教育法』 長谷川清之 明星大学出版部 2017年
 「OECD生徒の学習到達度調査」(PISA) 2009年

評価基準

■レポート評価

レポート1は、答申を読んでまとめること。それについて自分の立場から考えをまとめること。レポート2は、テキスト及び参考文献に留意して、自分の経験や考えをまとめる。コピーなどの流用は認めない。

■科目終了試験評価

科目の要点事項に即して学習の到達度を測るものである。テキストの内容の理解を踏まえた説明ができているかを評価する。

『第2版国語科教育入門』長谷川清之(明星大学出版部)

2019年度～

科目概要

小学校「国語科」教育とは、何をどのように教える教科か。これからの時代に求められる国語力とは何か。国語教育の意義や役割、方法をどう考えるか。国語科教育についての一般的包括的な基礎的な素養を身につけ、国語科教育の実際を考察します。とりわけこれらの社会によりよく生き、自己実現になくはない、自身の学びとして、国語科教育について実践的に考究します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. これからの時代に求められる国語力について理解する。
2. 国語科教育の意義・内容・方法について一般的な理解する。
3. 母語としての日本語について一般的な理解を図る。
4. 国語科教育の課題について認識を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 国語科教育の意義・目標・内容・方法
2. 日本語の特徴
3. 求められる国語力についての理解
4. 学習指導要領「国語科」の内容について
5. 文学作品(教材)を読むことの意義
6. 説明文(教材)を読むことの意義
7. PISA 調査「Reading Literacy」の定義と特徴と課題
8. 「書くこと」の意義
9. 「話すこと・聞くこと」の意義
10. 国語科と読書
11. 書写の意義
12. 国語科教育の課題

参考文献

「これからの時代に求められる国語力について」文化審議会答申 平成16年2月3日

『小学校学習指導要領』文部科学省 東洋館出版社

『初等国語科教育法』長谷川清之 明星大学出版部 2017年

「OECD生徒の学習到達度調査」(PISA) 2009年

評価基準

■レポート評価

レポート1は、答申を読んでまとめること。それについて自分の立場から考えをまとめること。レポート2は、テキスト及び参考文献に留意して、自分の経験や考えをまとめる。コピーなどの流用は認めない。

■科目終了試験評価

科目の要点事項に即して学習の到達度を測るものである。テキストの内容の理解を踏まえた説明ができているかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『第2版 社会科の理論と課題』 菱山覚一郎著(明星大学出版部)

2010年度～2017年度

『第3版 社会科の理論と課題』 菱山覚一郎著(明星大学出版部)

2018年度～

科目概要

小学校の社会科は、社会生活を理解し、公民的な資質の基礎を育成する教科であり、身近な社会事象などを教材とする。その学習方法は、学習者が課題を解決しながら主体的に学習を進める問題解決型がのぞましい。そのような視点から、小学校の社会科教育の意義や歴史に関する基本原理と、他の教科目との関連などの諸課題を学ぶ。社会科の目標及び内容を扱いながら、教科の特質と学習指導方法の関係や、学校や社会を取り巻く現代的な課題の影響などについても学習の対象とし、社会科という教科の認識の深化を目指していく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 小学校社会科の意義について解説できる。
2. 社会科の歴史について理解を深める。
3. 現行の社会科の目標と内容を把握する。
4. 社会科の学習指導方法に関する認識を得る。
5. 社会科と道德教育の関連を理解する。
6. 社会科と生活科の関連を歴史的視野からも説明できる。
7. 国際化や情報化の流れと社会科教育の関係を意識する。
8. 社会科を取り巻く課題について自分の意見が持てるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会科の意義と基本的性格
2. 戦後日本における社会科創設
3. 社会科と道德教育の関係
4. 現行の社会科の各学年の目標と内容
5. 社会科の学習指導方法
6. 社会科の学習指導要領のあゆみ
7. 社会科と他の教科目との関連
8. 社会科教育の基礎的な用語

参考文献

『社会科重要用語 300 の基礎知識』森分孝治・片上宗二編(明治図書出版)

『小学校学習指導要領』平成 29 年3月告示 文部科学省(東洋館出版社)

『小学校学習指導要領解説 社会編』文部科学省(日本文教出版)

■レポート評価

1. 単位毎に2つのレポート課題が示されている。両方の課題にそれぞれ解答してあること。
2. 配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や事典の類にも目を向けているかを評価する。
3. テキストや参考文献などの記述を転記するのではなく、自分の言葉で書き進めてあるか判断する。また、独自の見解や分析が加味されているかもみる。
4. 理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。

■科目終了試験評価

1. 全ての回の科目終了試験に、2つの問題が示されている。両方の問題にそれぞれ解答してあること。
2. テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、社会科教育を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。
3. 評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、理論的に順序立てられて記述されているか、事項や用語に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
4. 論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。また、独自の経験や感想は、出題の趣旨に沿っていない場合、減点対象とする。
5. 科目終了試験問題一覧の「解答上の注意」の条件を満たしていること。

『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省(東洋館出版)

2019 年度～

科目概要

小学校低学年に設定されている生活科の特質を理解するために、今次改訂の特色を踏まえて『学習指導要領』における生活科の目標・内容を把握し、学習指導上の要点や他教科との関連などについて考察する。各課題の作成を通して『学習指導要領』の解説を適切に理解することが望まれる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1.生活科の特質を理解する
- 2.『学習指導要領』における生活科の目標・内容の知識を得る
- 3.生活科の指導に必要な内容を自ら判断することができる
- 4.生活科の学習指導に必要な方法を自らの視点でまとめる技能を身につけることができる
- 5.生活科に関わる他教科・他領域に関心を持つ

■ 科目の学習要点事項

1. 生活科の意義
2. 生活科の目標・内容
3. 生活科の指導上の工夫・留意点
4. 生活科と他教科・他領域の関係

参考文献

『小学校学習指導要領』文部科学省(東洋館出版)

『平成 29 年版 小学校学習指導要領ポイント総整理 生活』久野弘幸(東洋館出版)

『平成 29 年版 小学校学習指導要領の展開 生活編』田村学編著(明治図書)

評価基準

■ レポート評価

1. 単位毎に 2 つのレポート課題が示されている。両方の課題にそれぞれ回答してあること。
2. 配本されたテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかを評価する。また、テキストだけでなく、参考書や事例を参照しているかを評価する。
3. テキストや参考文献の内容を転記するのではなく、自身の言葉で考察できているかを判断する。

■ 科目終了試験評価

1. 全ての回の科目終了試験に 2 つの問題が示されている。両方の問題にそれぞれ解答してあること。
2. テキストを基礎とした学習が進められ、学習指導要領の文言を適切に理解しているかを評価基準とする。具体的には、学習指導要領の文言と解説を適切に反映した論述であるかを評価する。
3. 評価のポイントとして、出題の趣旨に沿った解答が示されているかを見る。その上で、理論的に順序だてられて論じられているか、用語や事項に対する認識が適切か、文章としての説得力があるかどうかを判断する。
4. 論述文の展開方法、文章表現、誤字・脱字の有無、用語の適切な使用なども評価の対象とする。

使用テキスト

配本年度

- ①『新編 小学校英語教育法入門』 樋口忠彦・加賀田哲也 他(研究社) 2019年度～
 ②『小学校教員を目指す人のための外国語(英語)教育の基礎』高橋和子・佐藤玲子・伊藤撰子
 (明星大学出版部) 2019年度～
 ①②はセットで配本

科目概要

本科目では、おもに以下2点を目指します。

1. 小学校における「外国語活動」(第3・4学年)および「外国語」(第5・6学年)の授業実践に必要な、外国語(英語)に関する基礎的な知識を身に付けること
2. 小学校英語教育指導者として求められる英語運用能力を身に付けること

RT:「その他必要である、または期待される主体的学びの概要」

- ・レポート作成:課題に従って教科書の該当箇所をよく読み、必要に応じて参考文献を参照しながら執筆すること。
 レポート返却後は、担当教員のコメントをよく読み、与えられた課題について理解を深めること。
- ・試験:試験前には、あらかじめ科目概要をよく読み、教科書の要点を理解した上で試験を受けること。試験後は、試験問題と自ら書いた解答を十分に振り返り、理解不足であった点を復習すること。

- 小学校における外国語教育の導入経緯、目標・育成すべき資質／能力・指導上の留意点
- 母語習得・第二言語習得に関する基本的な知識
- 指導者の役割および、指導者に求められる資質と能力
- 学級担任が単独で担当する授業、および Team Teaching のあり方
- 小学校で用いられている教材を構成するシラバス形式と、主な教材(Let's Try!等)の構成・内容
- 英語の音声に関する基本的な知識
- 聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの扱い方(学年に応じた対応を含む)
- 学年に応じた文字指導のあり方
- 年間指導計画の構成要素と立て方
- 英語の授業過程(45分授業および短時間授業)と各過程で行うべき主な活動
- 児童の発達段階・学習段階に応じた指導のあり方
- 小学校英語教育において、歌、チャンツ、ライムを用いる意義と指導上のポイントおよび留意点
- 小学校英語教育において、クイズやゲームを用いる意義と指導上のポイントおよび留意点
- 小学校英語教育において、絵本を用いる意義と指導上のポイントおよび留意点
- 小学校の英語授業で活用できる指導法
- おもな教室英語(classroom English)
- 英語の文構造・文法に関する基本的な知識
- 英語の発音・綴りに関する基本的な知識
- Teacher Talk を行う際の基本的知識・能力

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ・小学校と中学校の英語教育の連携を念頭に置きながら、小学校における英語教育に必要な基礎的知識を身に付けること。
- ・小学校英語の授業担当者として必要な英語力・指導力を、授業場面を意識しながら身に付けること。
- ・小学校英語の授業担当者として求められる英語力を、地道に学習することを通して身に付けること。

■ 科目の学習要点事項

小学校英語教育担当者として求められる資質・能力は多岐にわたります。教科書をていねいに読み、参考文献を活用することを通して、知識理解に努め、英語指導者に求められる資質・能力を高めることに努めて下さい。

また、本科目は、別科目「初等英語科教育法」と深く関連しています。本科目と「初等英語科教育法」を共に履修することによって、小学校英語教育担当者として求められる基礎的な知識・能力(英語力・指導力)を身に付けることを目指しています。「初等英語科教育法」を併せて履修する場合、可能な限り「初等英語科教育法」の学習内容を参照しながら、学習を進めるようにして下さい。

★注意:「英語」と「初等英語科教育法」を両方履修する場合、事務手続き上『小学校教員を目指す人のための外国語(英語)教育の基礎』が計2冊配本されます。結果、同じテキストが重複してお手元に届くこととなります。この2冊の活用方法に関しては、1冊は書き込みをして学習し、もう1冊は書き込みをしないで繰り返し学習する際に用いる等、各自で工夫をしてぜひ有効に活用して下さい。

参考文献

- ・金森強・本多俊幸・泉恵美子編著『主体的な学びをめざす小学校英語教育—教科化からの新しい展開』教育出版
- ・酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一編著『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ—小学校外国語科内容論』三省堂
- ・樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子編著『小学英語指導法事典—教師の質問112に答える』教育出版
- ・文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』
- ・文部科学省『小学校学習指導要領(2017年3月告示)』
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語編(2017年7月)』
- ・文部科学省『中学校学習指導要領(2017年3月告示)』
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編(2017年7月)』
- ・語研ブックレット3・5『小学校英語 子どもの学習能力に寄り添う指導方法の提案』
- ・各出版社の中学校英語検定教科書

■レポート評価

レポートを評価する際、以下の観点から評価を行います。

- ・合格: 与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分な考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合ったレポートの体裁を踏まえている場合。
- ・不合格: 上記の要求に対して、6割未満しか満たしていない場合。

■科目終了試験評価

試験を評価する際、以下の観点から評価を行います。

- ・優: 与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、8割以上満たしている場合。
- ・良: 与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、7割以上8割未満である場合。
- ・可: 与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、6割以上7割未満である場合。
- ・不可: 与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、6割未満である場合。

使用テキスト

配本年度

『授業に役立つ算数教科書の数学的背景』 齋藤昇、小原豊編著(東洋館出版) 2015年度～2020年度

『深い学を支える算数教科書の数学的背景』 齋藤昇、小原豊編著(東洋館出版) 2021年度～

科目概要

算数を教える者にとって必要となる算数科の指導内容の数学的背景を深く理解し、具体的に考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

算数科における各領域の数学的背景とその重要性の深い理解を通して、指導内容を的確に把握することができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 算数と数学の違いや算数指導における数学的背景の重要性
2. 学習指導要領に示された指導内容の各領域における数学的背景
3. 算数的活動における数学的背景
4. 21世紀社会において期待される算数科の教育の展望

参考文献

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』文部科学省(日本文教出版)

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_004.pdf

評価基準

■ レポート評価

課題の内容について、テキストの内容をよく読んで理解したことや、演習問題の解答がなぜそうなっているのかなど、学んできたことを踏まえて、わかりやすく具体的に記述すること。テキストの内容で課題に関連する内容が、よくまとめられているかどうかを評価の対象とする。

■ 科目終了試験評価

算数の授業内容を充実させるためには、算数と数学の違いを理解した上で、その数学的な背景についても深く理解している必要がある。テキストの内容について具体的に考察しているか、演習問題についても答えを求めただけでなくなぜそうなるのかを説明できているかなど、テキストで学んだことが身につけているかどうかを評価する。

『未来の先生たちへ』 小原茂巳著(仮説社)

2011 年度～

科目概要

理科教育の具体的な内容や指導法や優れた教材、実践例などを通して、「たのしい科学の学び方・教え方」について学習する。「教材研究のあり方」「いかにしたら生徒が興味・関心を示す理科の授業を創造することができるか」「実験とは何か」「科学的に考えるとはどういうことか」「評価論」などについても学ぶ。「理科離れ」を克服する理科教育のあり方についても学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 理科教育の重要性について学ぶ。
2. 「たのしい科学の授業の成立条件」について学ぶ。
3. 「科学的な認識はいかにして成立するか」について学ぶ。
4. 児童・生徒が自信と意欲を持つようになる「理科の授業」について学ぶ。
5. 「科学入門教育とはどういうことか」について学ぶ。
6. 「教師の専門知識」について学ぶ。
7. 授業評価とはどうあるべきかについて学ぶ。
8. 「科学を学ぶたのしさ」「科学を教える喜び」について学ぶ。

■ 科目の学習要点事項

1. 理科教育の役割とその目標について
2. 「科学的なものの見方」について
3. 「科学的な認識はいかにして成立するか」について
4. 予想論について
5. 「実験(観察)はどうあるべきか」について
6. 授業における「誤謬(ごびゅう)」について
7. 自分の主体性と〈科学〉との対決、契約について
8. 「科学入門教育とはどうあるべきか」について
9. 「教師の専門知識とは？」について
10. 「たのしい授業＝児童・生徒が歓迎する理科の授業とは？」について
11. 理科の授業における「評価」について
12. 「授業する喜び」「教師の生きがい」について

参考文献

- 『小学校学習指導要領解説 理科編』(文部科学省)
 『中学校学習指導要領解説 理科編』(文部科学省)
 『科学と教育』板倉聖宣著(仮説社)
 『これがフツターの授業かな』山路敏英著(仮説社)

評価基準

■レポート評価

※レポート記述に関して次の観点から評価する。

1. レポート課題が要求している内容について、ポイントを把握し、要点を適切に記述しているか。
2. テキストのコンセプト、キーワードを適切にかつ十分に使って記述しているか。

※以下のようなレポートは再提出となる。

1. 1単位につき、1500字未満のレポート(各テーマについては750字以下のレポート)。
2. ほとんどがテキストの写しであるレポート。
3. テキストのコンセプトやキーワードをほとんど使っていない私見中心のレポート。
4. 他の受講生のレポートと同じか、あるいはほとんど類似のレポート。
5. テキストの中の具体例をあげていないレポート。

■科目終了試験評価

問題が要求している内容について、出題の要点を正しく理解し、論理的に解答されているかどうか、また論述の展開とその深度から評価する上で、少なくとも解答用紙の表面90%以上、記述されているかどうかの量的内容の両面から評価する。テキストの内容を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されない。テキストはぜひ読んできてほしい。テキストは問題を解きつつ(予想しながら)読み進めるとたのしく読めるはずです。

使用テキスト

配本年度

『五線譜の約束』 阪井恵・小山真紀・木暮朋佳・中里南子著(明星大学出版部)

2020年度～

科目概要

楽譜を読み書きするための基本的な知識を習得する。

「音楽」では、理論的に体系が整い、他の理論を学習する場合にも応用が利きやすいものとして西洋音楽の理論を中心に、学習を進める。

学習上の目標

■科目の到達目標

1. 小学校の教科書に載る程度の五線譜を、正確に読んで把握できる。
2. 小学校3年生の教科書に載る程度の五線譜を、正しく書ける。
3. 学習指導要領に示された、小学校指導する楽典事項を正しく理解する。

■科目の学習要点事項

1. 拍子とリズムの表記方法
2. 音の高さの表記方法
3. 音程の理解
4. 長調の音階、短調の音階と調号の理解
5. 和音とコードネームの理解
6. 基礎的な音楽記号と音楽用語の理解

1～6は全て連動していますが、少なくとも1と2が十分に理解されていない場合、小学校低学年の教科書に書いてあることが分からず、授業を担当することはできません。レポート課題を自力でこなすことで、理解を進めてください。

参考文献

特になし

評価基準

■レポート評価

レポートの解答にあたっては、正確な記載を行うこと。たとえば「#」「b」の記述位置、音階の解答は主音から主音までを記載する…等々を厳密に評価します。

■科目終了試験評価

レポート評価に準じます。

PB2060

図画工作

担当教員

槇野 匠

受講方法

RTor SR

使用テキスト

配本年度

『図画工作 実践ガイド』 佐藤洋照・藤江充・槇野匠編著(日本文教出版)

2020 年度～

科目概要

図画工作科は「表現・鑑賞」の活動を通して、児童それぞれが個性的なものの見方、感じ方、考え方、表し方に気づき、造形的な創造活動の基礎的な資質・能力と、豊かな感性・情操を育む教科である。よって、児童それぞれにとっての豊かな表現性を、自分らしくかつ他者に通じるかたちで表現できるように涵養することの可能性について、実践的活動を前提として研究する。SRによる受講では、事前研究に10時間以上を充てるのが望ましい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 造形表現活動の本源的な意味・価値・効用などについて理解を深め、当教科の普通教育における意義が見いだせること。
2. 図画工作科における造形表現活動にともなう材料・用具・技法についての理解を深め、実践的な指導力を身につけること。
3. 図画工作科における鑑賞活動によって育まれる児童の資質・能力について理解し、鑑賞の授業を展開できる知識を身につけること。

■ 科目の学習要点事項

1. 図画工作科教育の意義・目的
2. 表現と鑑賞との関係
3. 造形遊びの目的と内容、および材料・用具・技法
4. 平面的造形表現活動の内容と材料・用具・技法
5. 立体的造形表現活動の内容と材料・用具・技法
6. 情報機器を活用した造形活動の内容と留意点
7. 鑑賞活動の内容と評価の観点
8. 鑑賞活動の活動事例とその特徴

参考文献

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』 文部科学省(日本文教出版)

『美術教育ハンドブック』 監修 神林 恒道・ふじえみつる(三元社)

『アートフル図工の授業』 内野務・中村隆介著(日本文教出版)

『造形素材にこわしい本 子どもが見つかる創造回路』 内野務 著(日本文教出版)

評価基準

■レポート評価

- 1単位目、2単位目とも1にあたる大意要約のレポート作成にあたっては、課題に即したテキスト内容を的確に読み解き、各設問の解釈が所定の文字数でまとめられていること。
- 1単位目、2単位目とも2にあたるレポート課題のワークシート作成にあたっては、各項目についてわかりやすく記述され、活動の内容が明確に伝わる内容になっていること。

■科目終了試験評価

- 出題の趣旨に即した要点事項について、的確な用語を用いて正しく記述されていること。
- 題材例を用いて解答する設問の場合は、活動の内容について正しく明確に伝わる内容となっていること。

『小学校家庭科教育研究』教師養成研究会・家庭科教育部会編著（東洋館出版社）2011年度～2019年度

『初等家庭科の研究』大竹美登利、倉持清美編著（萌文書林）

2020年度～

科目概要

家庭科は、日常生活の中のさまざまな「なぜ」に答え、どのようにすれば良いかを探す力を育む教科です。小学生は日常生活に関心を示し、なぜを連発します。「なぜ食べ物の好き嫌いをしてはいけないの？」「なぜゴミを分別するの？」生活の中からはいろいろな興味が生まれます。そこから主体的に学ぶ姿勢を伸ばせるかどうかは“あなた”の役割です。本科目では、小学校家庭科の教科内容に関連する分野(家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活と環境)の基礎・基本を学びながら、児童の人間形成上における家庭科の役割についての考えを深めることができるようになることを目標としています。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1 家庭科の歴史と学ぶ意義を理解している。
- 2 現代における家族の構造、家庭生活の意義を理解している。
- 3 食事の役割と日常食の大切さを理解している。
- 4 体に必要な栄養素の働きについて理解している。
- 5 衣服の働きや快適な着方に関わる素材について理解している。
- 6 日常着の手入れの仕方について理解している。
- 7 住生活における整理・整頓や清掃の目的・方法について理解している。
- 8 食・衣・住生活および消費生活と連携させた環境教育について理解している。

■ 科目の学習要点事項

- 1 家庭科の歴史と学ぶ意義
- 2 家族・家庭生活
- 3 食生活
- 4 衣生活
- 5 住生活
- 6 消費生活・環境

参考文献

『小学校家庭科教育研究』教師養成研究会・家庭科教育部会編著(東洋館出版社)

『小学校学習指導要領解説家庭編』文部科学省(東洋館出版社)

『小学校家庭科授業成功の極意』勝田映子著(明治図書)

評価基準

■レポート評価

テキストや小学校学習指導要領を理解した上で、自分の言葉でまとめていること。

■科目終了試験評価

テキストおよびレポート課題を試験範囲とする。

テキストの内容を理解した上で解答していること。

出題の意図から外れた解答の場合には評価されないので気をつけること。

使用テキスト

配本年度

『子どもの体育指導のエッセンス』

坂本拓弥・佐藤羊・島本好平・今福一寿・金子敬二・笹原千穂子・村岡慈歩 著(明星大学出版)

2019 年度～

科目概要

小学校の体育授業を担当するための基本的な知識の獲得を目的とする。体育科の学力を高めることが、子ども達の「生きる力」や確かな学力、健やかな体の育成につながることに理解を深める。子ども達の発育・発達の特徴や体力について理解し、子ども達の成長に必要な適切な運動の内容や方法について理解を深める。また、子ども達が運動を学習し、上達していく仕組みや指導方法について考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの発育・発達の特徴(形態・機能)を理解する。
2. 体力の構成要素について理解する。
3. 体つくりの方法と運動指導の至適時について理解する。
4. 子どもの体力と運動技能について理解する。
5. 学習と運動学習について理解する。
6. 運動制御の仕組みについて理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 小学校体育科の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」について
2. 子どもの発育・発達(スキヤモンの発育曲線)
3. 体力の構成要素
4. 体つくりの方法と運動指導の至適時(発育発達に沿った体力づくり)
5. 運動技術と運動技能
6. 学習と運動学習
7. 運動制御の仕組み

参考文献

なし

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を理解し、適切な内容で回答できているかについて評価していく。テキストや参考文献、その他、回答作成に必要な客観的な情報を熟考しながら、論述していただきたい。回答の質と量の両面から評価する。

■ 科目終了試験評価

教授方法に記載した学習上の目標を達成するため、レポート課題やテキスト、参考文献などの内容を理解しながら学習できているかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『第2版 子どもの発達と環境—児童心理学序説』塚田紘一著(明星大学出版部)

2011年度～

科目概要

本講義では、人生全体の発達段階の中でも特に児童期に焦点を当て、(1)児童期に特徴的な心と体の発達、言語・認知機能の発達、学習・学業達成と動機づけ、社会性の発達、パーソナリティと自己の発達、家族関係・仲間関係、問題行動、発達障害に関するテーマについて概観するとともに、(2)現代の子どもの様々な問題を心理学的な視点から考察することを目的とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 授業で扱うトピックについて理解し、説明できるようになる。
2. 授業で扱うトピックについて自分自身で考える姿勢を身に付ける。
3. 授業で扱うトピックを教育現場の様々な問題と関連付けて考察し、子どもへの教育支援に関して心理学的な視点から検討できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 人間の発達と心理学的研究
2. 生涯発達の中の児童期
3. 身体と運動機能の発達
4. 言語機能の発達
5. 認知機能の発達
6. 知的機能の個人差
7. 学習・学業達成と動機づけ
8. 社会性の発達
9. パーソナリティと自己の発達
10. 家庭生活と家族の関係
11. 仲間関係と学校生活
12. 子どもの心理臨床
13. 不登校と非行といじめ
14. 発達障害と教育
15. 発達と社会・文化・歴史

参考文献

『子どものこころ—児童心理学入門』桜井茂男・濱口佳和・向井隆代(有斐閣、2003)

『学校と子ども理解の心理学』清水由紀編著(金子書房、2010)

『児童心理学への招待—学童期の発達と生活』小嶋秀夫・森下正康(新心理学ライブラリ、2009)

評価基準

■レポート評価

- ・課題の趣旨に合致した解答になっているか。
- ・教科書、参考文献などを参照し、適切な記述内容になっているか。
- ・明確な表現を用いて、具体的かつ論理的に論述されているか。

■科目終了試験評価

- ・設問の意図に合致した解答になっているか。
- ・設問に対応した学習内容を理解し、適切に説明できているか。
- ・明確な表現を用いて、具体的かつ論理的に論述されているか。

使用テキスト

配本年度

『現代初等教育課程入門』青木秀雄(明星大学出版部)

2014 年度～2018 年度

『現代教育課程入門』吉富芳正(明星大学出版部)

2019 年度～

科目概要

教育基本法第6条第2条では、法律に定める学校、つまり学校教育法第1条で定める幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校などにおいては、「教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない」と規定されている。これは、学校(幼稚園を含む。以下同じ。)での教育活動が意図的、体系的、組織的に行われることの必要性を示すものといえる。

このため、各学校では、教育活動全体の基幹となる教育課程を中心に、様々な計画が適切に編成され、効果的に実施されることが求められる。教員は、学校組織の一員として教育課程に関する知識を身に付け、その編成・実施のよりよい在り方を工夫し実践できる力量を磨き高めていくことが重要である。

学校の教育課程については、全国的に一定の教育水準を確保し、全国どこにおいても同水準の教育を受けることのできる機会を国民に保障するための基準として、学校種別ごとの学習指導要領(幼稚園教育要領を含む。以下同じ。)が定められている。

2017・2018(平成 29・30)年に改訂された新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」という理念が掲げられ、子どもたちが新しい時代を切り拓いていくために必要な力を育成するために、①「何ができるようになるか」という視点から育成を目指す資質・能力を明確にし、②「何を学ぶか」という視点から教科等の構成や目標・内容等を見直すとともに、③「どのように学ぶか」という視点から主体的・対話的で深い学びを実現することが目指されている。こうした教育をよりよく進めるためカリキュラム・マネジメントを確立することも示されている。新学習指導要領は、幼稚園は2018年度から、小学校は2020年度から、中学校は2021年度からそれぞれ全面実施されており、高等学校は2022年度から年次進行で実施される。このように新学習指導要領が実施される時期に当たり、教育課程についてしっかり学び考えることは、教員を目指す上で極めて重要である。

こうした背景も踏まえつつ、本科目では、初等教育を中心に、教育課程の意義、関係法令、学習指導要領の特徴、教育課程の編成・実施のポイント、教育課程に関する基礎的な理論、教育課程の変遷などについて考えながら学び、学校の組織の一員として教育課程の編成・実施に主体的に参画・協働するために必要な知識と思考力、判断力、表現力などの能力を身に付けることを目指す。

「教育課程論」の学習に当たっては、扱う対象が幅広いため、全体像の把握に努め、いま学んでいることが全体のどこに位置づくのかを常に意識しておくことが大切である。また、学習内容について、すでに知っていることや経験と関連付けたり、学校現場での生かし方を考えたりしながら学習することが大切である。さらに、教員として勤務する上で踏まえるべき法令や学習指導要領(教育要領)についての知識を有することを重視している。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育課程の意義や各学校で教育課程を編成することの重要性について理解し説明できる。
2. 教育課程に関する法令や学習指導要領の特徴について理解し説明できる。
3. 学習指導要領総則に示された教育課程の編成・実施の考え方や配慮事項について理解し、よりよい工夫を考え、説明できる。
4. カリキュラムに関する基礎的な理論について理解し説明できる。
5. 教育課程のおよその変遷について理解し説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育課程やカリキュラムなどの用語の定義と教育課程の意義
2. 教育課程関係法令と新学習指導要領の特徴
3. 教育課程の編成や実施の考え方や配慮事項
4. カリキュラムに関する基礎的な理論
5. 教育課程の歴史(戦後は学習指導要領の変遷を中心に)

参考文献

『小学校学習指導要領』文部科学省(東洋館出版社)、2017(平成29)年3月告示

『幼稚園教育要領』文部科学省(フレーベル館)、2017(平成29)年3月告示

『小学校学習指導要領解説総則編』文部科学省(東洋館出版社)、2017(平成29)年7月

『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館)、2018(平成30)年2月

※これらの学習指導要領関係の資料は、文部科学省のホームページでみることができる。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

吉富芳正ほか『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい、2020年4月

天笠茂『平成29年改訂小学校教育課程実践講座 総則』ぎょうせい、2017年10月

田村知子ほか『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年6月

評価基準

■ レポート評価

- レポート課題が求めているポイントが的確に把握され、それを中心にまとめられている。
- レポート課題の要点に関する知識が適切に整理されるとともに、自分の考えが理由や根拠、具体例などを明確にして示されている。
- レポートの構成と表現が論理的であり、わかりやすく表現されている。

■ 科目終了試験評価

- 設問が求めているポイントが的確に把握され、それを中心にまとめられている。
- 設問の要点に関する知識が適切に整理されるとともに、自分の考えが理由や根拠、具体例などを明確にして示されている。
- 解答の構成と表現が論理的であり、わかりやすく表現されている。

『第2版初等国語科教育法』長谷川清之(明星大学出版部)

2018年度～

科目概要

小学校学習指導要領に示されている国語科教育の「目標」「各学年の目標及び内容」「指導計画の作成と内容の取扱い」を学ぶ。とりわけ、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語」、「書写」、「読書」の内容を概括的に理解する。併せて、自ら言語活動を通して、今求められる指導法の基礎的な素養を習得し、教師として必要な国語科教育についての指導観を身に付ける。また、将来、教師となる上での自分自身の課題を見つけるとともに、国語に対する関心を一層深め、国語を尊重する態度を育てる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 小学校国語科の目標・内容・言語活動等の基本を理解する。
2. 国語科教育の内容を概括的に理解し、自らの国語力を高める。
3. 指導法の基礎的な素養を習得し、教師として必要な指導観を身につける。
4. 将来、教師となる上での課題を見つける。
5. 国語に関する関心を一層深め、国語を尊重する態度を育てる。

■ 科目の学習要点事項

1. 初等国語科教育の意義、目標、内容
2. 国語科教育の変遷と課題
3. 学習指導要領と学習指導
4. 音読・朗読の学習
5. 文学教材を「読むこと」の学習
6. 説明文教材を「読むこと」の学習
7. 「書くこと」の学習
8. 「話すこと・聞くこと」の学習
9. 国語科と書写学習
10. 読書活動
11. 「知識及び技能」の学習
12. 初等国語科実践研究

参考文献

- 『次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ』(中央教育審議会)2016年
『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省(東洋館出版社)
『OECD生徒の学習到達度調査』(PISA)2015年
『国語科入門』長谷川清之(明星大学出版部)

■レポート評価

レポート1

- ・学習の目標に正対した指導案であるかどうか。
- ・この学習を通して身に付ける知識や技術が明確か。
- ・中心とする言語活動の方法・ポイントを教えているか。
- ・課題を探究する学習(学び)を保障し、主体的な学びを経験させているか。
- ・学習のプロセスを明らかにしているか。
- ・学習の振り返り(自己評価)をしているか。
- ・指導案は自分で考えたものか。公開されているもののコピーは厳禁。

※スピーチの組み立てを押さえ、「話すこと」のプロセスに沿ってスピーチ原稿を作成させる。

レポート2

- ・学習指導要領の理念と示されている目標及び内容・指導計画の作成と内容の取扱いを踏まえ、どのような国語学習に取り組むのか。国語教育のあるべき姿・方向を捉えているか。
- ・今、どのような学習が求められているか。学力について理解しているか。
- ・どのような指導を目指すべきか。自身の指導観を明確にしているか。

■科目終了試験評価

科目の要点事項について、学習の到達度を測るものである。テキストの内容を踏まえた説明できているか、自分の考えを述べているかを評価する。

『第2版初等国語科教育法』長谷川清之(明星大学出版部)

2020年度～

科目概要

小学校学習指導要領に示されている国語科教育の「目標」「各学年の目標及び内容」「指導計画の作成と内容の取扱い」を学ぶ。とりわけ、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語」、「書写」、「読書」の内容を概括的に理解する。併せて、自ら言語活動を通して、今求められる指導法の基礎的な素養を習得し、教師として必要な国語科教育についての指導観を身に付ける。また、将来、教師となる上での自分自身の課題を見つけるとともに、国語に対する関心を一層深め、国語を尊重する態度を育てる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 小学校国語科の目標・内容・言語活動等の基本を理解する。
2. 国語科教育の内容を概括的に理解し、自らの国語力を高める。
3. 指導法の基礎的な素養を習得し、教師として必要な指導観を身につける。
4. 将来、教師となる上での課題を見つける。
5. 国語に関する関心を一層深め、国語を尊重する態度を育てる。

■ 科目の学習要点事項

1. 初等国語科教育の意義、目標、内容
2. 国語科教育の変遷と課題
3. 学習指導要領と学習指導
4. 音読・朗読の学習
5. 文学教材を「読むこと」の学習
6. 説明文教材を「読むこと」の学習
7. 「書くこと」の学習
8. 「話すこと・聞くこと」の学習
9. 国語科と書写学習
10. 読書活動
11. 「知識及び技能」の学習
12. 初等国語科実践研究

参考文献

- 『次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ』(中央教育審議会)2016年
 『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省(東洋館出版社)
 『OECD生徒の学習到達度調査』(PISA)2015年
 『国語科入門』長谷川清之(明星大学出版部)

■レポート評価

レポート1

- ・学習の目標に正対した指導案であるかどうか。
- ・この学習を通して身に付ける知識や技術が明確か。
- ・中心とする言語活動の方法・ポイントを教えているか。
- ・課題を探究する学習(学び)を保障し、主体的な学びを経験させているか。
- ・学習のプロセスを明らかにしているか。
- ・学習の振り返り(自己評価)をしているか。
- ・指導案は自分で考えたものか。公開されているもののコピーは厳禁。

※スピーチの組み立てを押さえ、「話すこと」のプロセスに沿ってスピーチ原稿を作成させる。

レポート2

- ・学習指導要領の理念と示されている目標及び内容・指導計画の作成と内容の取扱いを踏まえ、どのような国語学習に取り組むのか。国語教育のあるべき姿・方向を捉えているか。
- ・今、どのような学習が求められているか。学力について理解しているか。
- ・どのような指導を目指すべきか。自身の指導観を明確にしているか。

■科目終了試験評価

科目の要点事項について、学習の到達度を測るものである。テキストの内容を踏まえた説明できているか、自分の考えを述べているかを評価する。

『小学校 新学習指導要領 社会の授業づくり』 澤井陽介著(明治図書)

2019 年度～

科目概要

初等社会科の内容と指導方法について、「小学校学習指導要領—社会編」を中心にいくつかの重要な視点から検討をすることで、地理・歴史・公民領域の社会認識力と体験により社会形成力を培い、「公民としての資質・能力の基礎を育成する」教科であることを深く理解するとともに、今日の子どもの意識の変化と教育改革の動向を背景に、上記学力を育むための指導法を考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 初等社会科の目標の特徴と身に付けさせたい社会科の学力について説明できる。
2. 初等社会科における「社会的事象の見方・考え方を働かせる」授業づくりについて、その目的と実践方法を具体的に説明できる。
3. 初等社会科の授業づくりに関して、児童が目標の実現に迫る学習活動の構想はどうか具体的に説明できる。
4. 初等社会科の授業における「教師の主たる問い」と「児童の学習状況の評価」のあり方について具体的に説明できる。
5. 「小学校学習指導要領—社会編」に則した指導計画・学習指導案の作成について理解を深め説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 「小学校学習指導要領—社会編」の改善の要点
2. 公民としての資質・能力の基礎を育成する初等社会科の方法
3. 初等社会科に求められる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」
4. 初等社会科に求められる「学びに向かう力・人間性」
5. 問題解決的な学習展開と教材づくり
6. 「主体的・対話的で深く学ぶ」初等社会科の授業づくり

参考文献

『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』文部科学省(東洋館出版社)

『小学校学習指導要領解説(平成 29 年告示) — 社会編』文部科学省(日本文教出版)

『見方・考え方—社会科編』澤井陽介・加藤寿朗(東洋館出版社)

評価基準

■レポート評価

レポート課題に関係した内容をテキストから選び、テーマに即してまとめる。次に参考図書を図書館等で閲覧し、まとめた内容を深める。最後に文章が理論的に一貫しているかを推敲する。自らの経験に終始せずテキストを基本に客観的に論じること。

■科目終了試験評価

評価のポイントは、出題の主旨を理解しキーワード、テクニカルタームや事項を十分把握して記述されていることである。専門性のない自説だけをいくら述べ立てても評価されない。そこで試験の準備として、レポート課題と解説の各単位毎に示した要点事項の内容を整理し理解を深めておくこと。

『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 齋藤昇 他著(東洋館出版)

2019 年度～

科目概要

算数科教育の理論や内容、指導上の課題を幅広い視点から探求し、指導事例をもとに具体的に考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

算数科教育の本質について学び、算数科の目標や内容はどのような考えにもとづいて構成されているのかについて理解することを通して、識見豊かな教員としての資質を身につけることを目指す。

■ 科目の学習要点事項

- 1 算数科の目標、内容、評価及び算数科の指摘変遷
- 2 学習指導要領に示された指導内容の各領域における今日的課題、目標な指導内容の系統
- 3 数学的活動及び、算数科で重視される数学的な考え方や数学的リテラシーの育成
- 4 算数科における教材・教具、授業力を高めるための基礎的な指導法と発展的な指導

参考文献

『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 算数編』文部科学省(日本文教出版)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm

評価基準

■ レポート評価

課題の内容について、テキストの内容をよく読んで理解したことや自身の経験を踏まえて、わかりやすく具体例を用いて記述すること。テキストの内容で課題に関連する箇所がよくまとめられているか、教材や指導の仕方についても「何を教えるのか」だけでなく「何を育てるのか」を具体的に述べているか、などを評価の対象とする。

■ 科目終了試験評価

優れた算数の授業を行うためには、算数科の教育の本質とは何か、算数科の目標や内容はどのような考えにもとづいて構成されているのか、実際の小学校の現場ではどのような授業展開が行われているのか、などについて深く理解している必要がある。テキストの内容について、子どもたちの学びを意識して具体的に考察できているか、テキストで学んだことが身につけているかどうか、また小学校学習指導要領(平成 29 年告示)の算数科における目標や内容を十分に理解しているのか、などを評価する。

科目概要

初等理科教育の具体的な内容や指導法や優れた教材、実践例を通して、初等理科教育法の目標とその具体化の方法を学ぶ。「たのしい科学の授業はいかにしたら成立するか」「その具体的な指導法はどうあるべきか」「優れた理科の教材とはどのようなものなのか」「授業運営で大切にしなければいけないことは何か」「子どもが興味・関心を持つ理想的な理科の授業とは」「授業評価はどうあるべきか」…などについて学んでいく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 初等理科教育の重要性について学ぶ。
2. 「たのしい理科の授業の成立条件」について学ぶ。
3. 「優れた理科の教材とはどのようなものか」について学ぶ。
4. 「学ぶ側(子どもたち)にとって安心でき、かつ意欲的になれるいい授業運営とはどういうものか」について学ぶ。
5. 「子どもたちが自信と意欲を持つようになる理科の授業の進め方」について学ぶ。
6. 「教材研究はどうあるべきか」について学ぶ。
7. 「授業評価とはどうあるべきか」について学ぶ。
8. 「理科の授業をする教師の喜び」について学ぶ。

■ 科目の学習要点事項

1. 初等理科教育の役割とその目標について
2. 「たのしい理科の授業の成立条件」について
3. 「子どもたちが歓迎する理科の教材」について
4. 授業運営法1—問題の提出のしかた
5. 授業運営法2—予想のたずねかた
6. 授業運営法3—理由のたずねかた
7. 授業運営法4—討論のさせかた
8. 授業運営法5—実験のしかた
9. 「教材研究はどうあるべきか」について
10. 「授業評価はどうあるべきか」について
11. 「理科の授業を楽しむ子どもたち」について
12. 「理科教師の喜び、生きがい」について

参考文献

- 『小学校学習指導要領解説 理科編』(文部科学省)
『未来の先生たちへ』小原茂巳著(仮説社)
『授業を楽しむ子どもたち』小原茂巳著(仮説社)
『科学と教育』板倉聖宣著(仮説社)

評価基準

■レポート評価

※レポート記述に関して次の観点から評価する。

1. レポート課題が要求している内容について、ポイントを把握し、要点を適切に記述しているか。
2. テキストのコンセプト、キーワードを適切にかつ十分に使って記述しているか。

※以下のようなレポートは再提出となる。

1. 1単位につき、1500字未満のレポート(各テーマについては750字以下のレポート)。
2. ほとんどがテキストの写しであるレポート。
3. テキストのコンセプトやキーワードをほとんど使っていない私見中心のレポート。
4. 他の受講生のレポートと同じか、あるいはほとんど類似のレポート。
5. テキストの中の具体例をあげていないレポート。

■科目終了試験評価

問題が要求している内容について、出題の要点を正しく理解し、論理的に解答されているかどうか、また論述の展開とその深度から評価する上で、少なくとも解答用紙の表面90%以上、記述されているかどうかの量的内容の両面から評価する。テキストの内容やコンセプトを踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されません。

テキストをしっかりと読んで受験すること。テキストは問題を解きつつ(予想しながら)読み進めるとたのしく読めるはずです。

『平成 29 年版 小学校学習指導要領の展開 生活編』田村学編著(明治図書)

2019 年度～

科目概要

『学習指導要領』における生活科の理解を踏まえて、生活科の意義や特性・指導計画の作成・学習指導上の工夫、評価など生活科の実践に関する知識、技術について学習する。指導計画の作成にあたっては、想定される地域の特色を自ら調べて計画に反映することが望まれる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 生活科の指導計画作成上の配慮事項を理解する
2. 地域の特性を生かした指導計画を考えることができる
3. 指導計画に使用可能な地域の教材を適切に判断することができる
4. 生活科の学習指導上の技能を身につけることができる
5. 生活科に関わる具体的な地域の特性に関心を持つ

■ 科目の学習要点事項

1. 生活科の学習指導の特質
2. 生活科の指導計画作成上の配慮事項
3. 生活科の内容の取扱いの配慮事項
4. 各学年の目標を踏まえた単元学習
5. 地域の特性を踏まえた単元学習

参考文献

『小学校学習指導要領』文部科学省(東洋館出版)

『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省(東洋館出版)

『平成 29 年版 小学校学習指導要領ポイント総整理 生活』久野弘幸(東洋館出版)

■ レポート評価

1. 単位毎に2つのレポート課題が示されている。両方の課題にそれぞれ回答してあること。
2. 配本されたテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかを評価する。また、テキストだけでなく、参考書や事例を参照しているかを評価する。
3. テキストや参考文献の内容を転記するのではなく、自身の言葉で指導計画等を作成できているかを判断する。また、独自の工夫や見解が加味されているかも評価する。

■ 科目終了試験評価

1. 全ての回の科目終了試験に2つの問題が示されている。両方の問題にそれぞれ解答してあること。
2. テキストを基礎とした学習が進められ、学習指導要領の文言を適切に理解しているかを評価基準とする。具体的には、学習指導要領の目標や内容を適切に反映した論述であるかを評価する。
3. 評価のポイントとして、出題の趣旨に沿った解答が示されているかを見る。その上で、理論的に順序だてられて論じられているか、用語や事項に対する認識が適切か、文章としての説得力があるかどうかを判断する。
4. 論述文の展開方法、文章表現、誤字・脱字の有無、用語の適切な使用なども評価の対象とする。独自の経験や感想のみで出題の趣旨に沿わない文章は減点の対象とする。

使用テキスト

配本年度

①『主体的な学びをめざす小学校英語教育－教科化からの新しい展開』

金森強・本多敏幸・泉恵美子編著(教育出版) 2019年度～

②『小学校教員を目指す人のための外国語(英語)教育の基礎』高橋和子・佐藤玲子・伊藤撰子

(明星大学出版部) 2019年度～

①②はセットで配本

科目概要

本科目では、おもに以下2点を目指します。

1. 小学校における「外国語活動」(第3・4学年)および「外国語」(第5・6学年)の授業実践に必要な、外国語(英語)に関する知識を身に付けること
2. 小学校英語教育指導者として求められる英語運用能力を身に付けること

RT:「その他必要である、または期待される主体的学びの概要」

- ・レポート作成:課題に従って教科書の該当箇所をよく読み、必要に応じて参考文献を参照しながら執筆すること。
レポート返却後は、担当教員のコメントをよく読み、与えられた課題について理解を深めること。
- ・試験:試験前には、あらかじめ科目概要をよく読み、教科書の要点を理解した上で試験を受けること。試験後は、試験問題と自ら書いた解答を十分に振り返り、理解不足であった点を復習すること。

○英語教育を通じたコミュニケーション能力の育成

○2017年3月告示『小学校学習指導要領』で示された、小学校外国語教育の今後のあり方

○小学校と中学校以降の英語教育の連携と、小学校英語教育が果たす役割

○「外国語」(高学年)の指導のポイント

○「外国語活動」(中学年)の指導のポイント

○学習到達目標・指導計画の立て方

○小学校英語教育における主体的・対話的で深い学び

○音声指導から文字指導への移行の仕方・留意点

○学習状況の評価のあり方(パフォーマンス評価・ルーブリックの活用を含む)

○ICTを活用した授業作り

○物語教材を活用した授業作り

○他教科との連携を活かした授業作り(CLIL等)

○国際理解教育・異文化理解教育の概要と授業例

○特別支援・ユニバーサルデザイン(UD)の視点を活かした授業のあり方

○おもな教室英語(classroom English)

○学年に応じた英語授業の組み立て方・やり取りの進め方、言語活動の設定の仕方

○Team Teachingを行うための授業準備・指導方法・留意点

○ALT(Assistant Language Teacher)との効果的な打ち合わせの仕方

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ・小学校と中学校以降の英語教育の連携を十分に踏まえて、小学校における英語教育に必要な知識を身に付けること。
- ・多様な指導環境について理解し、対応力を身に付けること
- ・小学校英語の授業担当者として必要な英語力・指導力を、授業場面を意識しながら身に付けること。さらに、担当学年に応じた対応力を身に付けること。
- ・小学校英語の授業担当者として求められる英語力を、地道に学習することを通して身に付けること。さらに、日々の学習を通して英語力向上に努めること。

■ 科目の学習要点事項

小学校英語教育担当者として求められる資質・能力は多岐にわたります。教科書をていねいに読み、参考文献を積極的に活用することを通して、知識理解に努め、指導者に求められる資質・能力を高めることに努めて下さい。また、本科目は、小学校英語教育関連の別科目「英語」と深く関連しています。本科目と「英語」を共に履修することによって、小学校英語教育担当者として求められる基礎的な知識・能力(英語力・指導力)を身に付けることを目指しています。「英語」を併せて履修する場合、可能な限り「英語」の学習内容を参照しながら、学習を進めるようにして下さい。

- ★注意:「初等英語科教育法」と「英語」を両方履修する場合、事務手続き上『小学校教員を目指す人のための外国語(英語)教育の基礎』が計2冊配本されます。結果、同じテキストが重複してお手元に届くことになります。この2冊の活用方法に関しては、1冊は書き込みをして学習し、もう1冊は書き込みをしないで繰り返し学習する際に用いる等、各自で工夫をしてぜひ有効に活用して下さい。

参考文献

樋口忠彦他『新編小学校英語教育法入門』研究社

酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一編著『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズー小学校外国語科内容論』三省堂

樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子編著『小学英語指導法事典—教師の質問 112 に応える』教育出版

文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』

文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』

文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月)』

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』

文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月)』

語研ブックレット3・5『小学校英語 子どもの学習能力に寄り添う指導方法の提案』

各出版社の中学校英語検定教科書

■レポート評価

レポートを評価する際、以下の観点から評価を行います。

- ・合格:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分な考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合ったレポートの体裁を踏まえている場合。
- ・不合格:上記の要求に対して、6割未満しか満たしていない場合。

■科目終了試験評価

試験を評価する際、以下の観点から評価を行います。

- ・優:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、8割以上満たしている場合。
- ・良:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、7割以上8割未満である場合。
- ・可:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、6割以上7割未満である場合。
- ・不可:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、6割未満である場合。

使用テキスト

配本年度

『教育方法の理論と実践』 小川哲生・菱山覚一郎(明星大学出版部)
『第2版 教育方法の理論と実践』 小川哲生・菱山覚一郎(明星大学出版部)

2011年度～2019年度
2020年度～

科目概要

教育方法をめぐる理論的・実践的課題を考察することを通して、授業展開能力の育成を目指す。理論的な側面からは、教育方法の史的展開や現代的課題などを検討し、確かな教育観の育成を意識する。実践的な側面からは、学校教育の中心である授業実践を多角的に分析し、情報機器の活用を含む教育方法を学び、教師としての資質と技術の向上を意識する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育方法に対する認識が得られ、授業(情報機器の活用を含む)を展開できる。
2. 教育の方法と技術を意識した教材研究ができ、学習指導案が書けるようになる。
3. 教育の目的と教育方法の関連について理解が得られる。
4. 教育方法の歴史と思想が把握できる。
5. 現行および過去の学習指導要領に示される教育方法を整理できる。
6. 学力と評価および指導と評価の関係を常に意識するようになる。
7. デジタル機器を活用した教材開発ができるようになる。
8. 情報通信技術を活用した授業実践を進めることができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育の方法と技術に関する理論と歴史
2. 教育方法の類型と特色
3. 授業の役割と意義
4. 教材研究と学習指導案
5. 学力と評価
6. 情報メディアの活用と授業
7. 情報活用能力の向上と現実的課題
8. 高度情報通信社会における教育のあり方

参考文献

- 『教育の方法と技術』柴田義松編(学文社)
『新しい時代の教育方法』山下政俊・湯浅恭正(ミネルヴァ書房)
『小学校学習指導要領』文部科学省

■レポート評価

- 単位毎に2つのレポート課題が示されている。両方の課題にそれぞれ解答してあること。
- 配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や辞典の類にも目を向けているかを評価する。
- テキストや参考文献などの記述を転記するのではなく、自分の言葉で書き進めてあるか判断する。また、独自の見解や分析が加味されているかもみる。
- 理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。

■科目終了試験評価

- 全ての回の科目終了試験に、2つの問題が示されている。両方の問題にそれぞれ解答してあること。
- テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、教育方法学を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。
- 評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、理論的に順序立てられて記述されているか、事項や用語に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- 論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。また、独自の経験や感想は、出題の趣旨に沿っていない場合は、減点対象とする。
- 科目終了試験問題一覧の「解答上の注意」の条件を満たしていること。

使用テキスト

配本年度

『保育・教育ネオシリーズ 16 保育内容・健康』河鍋馨編著(同文書院)	2011年度～2013年度
『保育内容 健康』鈴木隆著(大学図書出版)	2014年度～2018年度
『保育内容 健康』吉田伊津美・砂上史子・松寄洋子(光生館)	2019年度
『演習保育内容「健康」－基礎的事項の理解と指導法－』河邊貴子・吉田伊津美(建帛社)2020年度～	

科目概要

「保育内容A・健康」では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要項における領域「健康」のねらいと内容の基本について知り、乳幼児の発育発達の特徴を理解した上で、運動や生活等が子どもたちの心身の健康にどのような影響を及ぼすかを考察する。また、安全教育についても学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 健康の概念、および乳幼児の健康について理解する
2. 乳幼児の発育発達の特徴を理解する
3. 乳幼児の健康管理について理解する
4. 基本的な生活習慣および生活リズム獲得の重要性について理解する
5. 安全管理・安全指導について理解する
6. 食育活動について理解する

■ 科目の学習要点事項

1. 健康の定義
2. 乳幼児の心と体
3. 健康観察、疾病予防
4. 基本的な生活習慣と健康教育
5. 安全指導
6. 運動遊びの指導
7. 食育にかかわる指導

参考文献

- 『新・保育講座7 保育内容「健康」』杉原隆ら編(ミネルヴァ書房)
『事例で学ぶ保育内容 領域「健康」』無藤隆監修(萌文書林)
『保育と幼児期の運動遊び』岩崎洋子編(萌文書林)
『子どもの元気を取り戻す 保育内容「健康」』池田裕恵編著(杏林書院)

評価基準

■ レポート評価

テーマに関連した内容について、テキストを熟読し、学習の要点を正しく理解できているか。また、その他の参考文献や資料も大いに利用し、エビデンスを基に論じられているか。

使用テキスト

配本年度

『保育内容 健康』 吉田伊津美編著(光生館)

2019 年度

『演習保育内容「健康」－基礎的事項の理解と指導法－』河邊貴子・吉田伊津美(建帛社)

2020 年度～

科目概要

領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。

特に乳幼児期の食育に関する保育や、健康に関わる生活習慣に理解を深め、適切な指導法を身に付ける。

テキスト、参考文献を熟読し、レポート作成に当たること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

領域「健康」の指導法として、多様な動きを経験する環境構成と援助や基本的な生活習慣を獲得するための環境構成と援助について知るとともに、食育を中心とした保育場面、健康指導と安全指導を中心とした保育場面の適切な指導方法を学ぶ。

■ 科目の学習要点事項

1. 領域「健康」の指導における保育者の役割
2. 基本的な生活習慣に関わる指導
3. 食育に関わる指導
4. 安全教育に関わる指導
5. 運動遊びに関わる指導
6. 日常生活における身体活動
7. 領域「健康」と小学校教育とのつながり

参考文献

『子どもの元気を取り戻す 保育内容「健康」』 池田裕恵編著(杏林書院)

『新・保育実践を支える 健康』 津金美智子編著 (福村出版)

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 (フレーベル館)

『保育所保育指針解説』 厚生労働省 (フレーベル館)

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (フレーベル館)

『幼児の運動遊び―「幼児期運動指針」に沿って』 吉田伊津美編著(チャイルド本社)

『保育と幼児期の運動遊び』 岩崎洋子編(萌文書林)

『0～5 歳児の発達と援助がわかる生活習慣百科』 川原佐公監修 (ひかりのくに)

■レポート評価

テーマに関連した内容について、テキストを熟読し、学習の要点を正しく理解できているか。
また、その他文献や資料も多いに利用して、まとめることが出来ているか。
「解説」に示されているレポート作成の注意点を守って作成されているか。

『一人一人を大切に作るユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木、板野和彦著(萌文書林)

2016年度～

科目概要

幼稚園教育要領の領域「表現」の目標を達成するために、あらゆる面からの具体的な内容を把握し、学び、幼児の音楽的表現のねらいと内容を幅広く理解できるようにする。そして幼児の発達に応じて、いろいろな角度から援助、指導出来るよう、柔軟性のある指導計画について考え、立案出来るための学習をする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 音楽的表現の具体的な内容の理解を深める。
2. 音楽的表現の活動を援助、指導するための知識を幼児の発達を理解させながら、身につける。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育要領の変遷と今日の課題
2. 音楽的表現のねらいと内容
3. 指導計画の立案の考え方
4. 幼児の発達と音楽
5. 音楽的表現の活動
6. 保育者の援助の重要性

参考文献

『保育内容「表現」』平田智久・小林紀子・砂上史子編(ミネルヴァ書房)

『子どもの表現を見る、育てる－音楽と造形の視点から』今川恭子・志民一成・宇佐美明子著(文化書房博文社)

『楽しみながらからだを動かす 1～5歳のかんたんリトミック(ナツメ社保育シリーズ)』神原雅之著(ナツメ社)

評価基準

■ レポート評価

- ・レポート最後に自分自身の意見や考察を加えて良い。
- ・作成にあたって、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。

『一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木、板野和彦著(萌文書林)

2019年度～

科目概要

幼稚園教育要領の領域「表現」の目標を達成するために、あらゆる面からの具体的な内容を把握し、学び、幼児の音楽的表現のねらいと内容を幅広く理解できるようにする。そして幼児の発達に応じて、いろいろな角度から援助、指導出来るよう、柔軟性のある指導計画について考え、立案出来るための学習をする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 音楽的表現の具体的な内容の理解を深める。
2. 音楽的表現の活動を援助、指導するための知識を幼児の発達を理解させながら、身につける。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育要領の変遷と今日の課題
2. 音楽的表現のねらいと内容
3. 指導計画の立案の考え方
4. 幼児の発達と音楽
5. 音楽的表現の活動
6. 保育者の援助の重要性

参考文献

『保育内容「表現」』平田智久・小林紀子・砂上史子編(ミネルヴァ書房)

『子どもの表現を見る、育てる－音楽と造形の視点から』今川恭子・志民一成・宇佐美明子著(文化書房博文社)

『楽しみながらからだを動かす 1～5歳のかんたんリトミック(ナツメ社保育シリーズ)』神原雅之著(ナツメ社)

評価基準

■ レポート評価

- ・レポート最後に自分自身の意見や考察を加えて良い。
- ・作成にあたって、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。

『保育内容 造形表現の指導』 村内哲二編著(建帛社)

2011年度～

科目概要

幼児期における表出・表現活動の中でも、とくに絵を描いたりモノを作ったりする造形的な表現活動の、原理的な発達段階を中心に扱う。本来は誰にとっても自由で自発的な表現活動であるが、特にこの時期の子どもの活発で意欲的な内発的要因・動機による表現活動に、喜びや自信を持たせながら、意欲的な表現活動を子ども自身のものとして定着させ、豊かな感性や表現力を育むための理論と方法論の研究をする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 人間の表出・表現活動の本質を幼児期の表現活動の中に見いだし、造形理論との照合ができること。
2. 造形表現の分類と特質とを知り、他の表現活動への関連性について把握できること。
3. 造形的表現活動の普遍的な発達段階的特徴について知り、実際の保育活動内で指導案化できること。

■ 科目の学習要点事項

1. 人間の表出・表現活動の本質を幼児期の表現活動の中に見いだし、造形理論との照合ができること。
2. 造形表現の分類と特質とを知り、他の表現活動への関連性について把握できること。
3. 造形的表現活動の普遍的な発達段階的特徴について知り、実際の保育活動内で指導案化できること。

参考文献

- 『児童画のロゴス』鬼丸吉弘(頸草書房)
『お絵描きウォッチング』なかがわちひろ(理論社)
『内蔵のはたらきと子どものころ』三木成夫(築地書房)
『子どもが絵を描くとき』磯部錦司(一藝社)
『幼稚園教育要領』(文部科学省)

評価基準

■ レポート評価

- ・レポートの作成にあたっては、レポート課題に即した範囲のテキスト内容を的確に読解し、その範囲に該当する学習の要点事項に関する解釈が、所定の文字数でまとめられていること。
- ・考察や私見が求められている課題の場合でも、記述内容が主観的に過ぎるものや、反対にテキストからの引用そのものは不合格とする。

『保育をひらく造形表現』 槇 英子(萌文書林)

2019 年度～

科目概要

幼児期の表出・表現活動の中で、とくに絵を描いたりモノを作ったりする造形的な表現活動を取り扱う。子どもの表現活動には原理的な発達段階があり、大人の表現活動とはちがう内発的な要因・動機や表現形がある。表現活動はもともと自由で自発的なものだが、とくにこの時期の子どもたちに喜びや自信を持たせながら、意欲的な表現活動を子ども自身のものとして定着させ、豊かな感性や表現力をはぐくむための理論と方法論の研究をする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1 造形的な表現とはなにか、人間の表現活動の本質は幼児期の表現活動の中にもあることを発見し造形理論と照合して理解できること。造形的な表現活動の原理を知ること。
- 2 造形的表現の特質を知り、ほかの表現活動との関連を理解できること。
- 3 子どもの成長と、造形表現の段階的な特性を関係づけて理解し、表現する子どもの支援ができること。

■ 科目の学習要点事項

- 1 幼児の表現活動の中にある人間の表現活動の本質を見出すこと。それを造形理論と照合すること。造形的表現とは何かを考えること。
- 2 造形的表現とはどのようなものかを知り、ほかの表現活動との関連を理解する。もともと人間が表現をするのであり、ほかの形式の表現活動と通底するところは大きい。
- 3 子どもの造形的表現活動の普遍的な発達段階を理解し、子どもの表現活動を支援できること。

参考文献

「児童画のロゴス」鬼丸吉弘(勁草書房)

「お絵描きウォッチング」なかがわちひろ(理論社)

「幼稚園教育要領」文科省

評価基準

■ レポート評価

- 1 レポートの課題の範囲になっているテキストの範囲をきちんと理解し、学習の要点を意識に置いた解釈・まとめが文字数の範囲内でできていること。
- 2 絵を読むことは主観的な感想だけではなく客観的な説明だけでなく、その絵の中でどんな出来事が起きているかを読もうとすること。

使用テキスト

配本年度

『新現代保育原理[第3版]』 柏原栄子・渡辺のゆり編著

2019年度～

『幼稚園教育要領』文部科学省【必ず文部科学省のサイトより確認する事(レポート課題解説参照)】

『保育所保育指針』厚生労働省【必ず厚生労働省のサイトより確認する事(レポート課題解説参照)】

科目概要

先ず保育とは何かを考える。その際に子どもとはどういう存在かを、子ども観との関係で考える。次に保育という用語、一般的に考えられる保育の意義について考える。さらに子どもの発達について、学ぶ。また、保育と子どもの環境について学ぶ。これらについて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」から学ぶ。「幼稚園教育要領」(文部科学省)、「保育所保育指針」(厚生労働省)をサイトから必ず確認すること。(サイトはレポート課題解説参照。)

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 保育とは何かということを知る重要性について理解する。
2. 子ども観の意味と子ども観の必要性について理解する。
3. 保育という用語について知り、一般的に考えられる保育の意義について理解する。
4. 子どもの発達の意味と特徴を理解する。
5. 子どもの身のまわりの環境と遊びの意味と意義を理解する。
6. 上記の内容を「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」から学ぶ。

■ 科目の学習要点事項

1. 保育とは何か。
2. 「子どもとはどういう存在か」という観点から「子ども観」について学ぶことになる。
3. 「保育の意義」について、社会にとって保護者にとって、子ども(特に乳幼児)にとってどうして必要なのか学ぶことになる。
4. 子どもの発達の意味と特徴について学ぶことになる。
5. 「保育と子どもの環境・遊び」について、環境を通し、遊びを中心として行う保育の特性から学ぶことになる。

参考文献

『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)

『保育所保育指針解説』(厚生労働省)

『幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう』(萌文書林)

評価基準

■レポート評価

1. テキストをよく読んで論理的にまとめられているか。
2. テーマに沿った内容であるか。
3. 自分の考えも加味されているか。
4. 他者のレポートの盗用は一切認めない。

■科目終了試験評価

1. 問題はレポート課題を含め、学習上の目標に掲載されている事項についてテキストから出題されているので、問題文をよく読んで、要求されていることを論理的に記述する。
2. 記述の内容と質で判断する。

『新しい保育講座① 保育原理』渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀編(ミネルヴァ書房)

2019年度～

科目概要

保育を行う上で知っておかなければならない基本的知識の習得を目的とする。具体的には、子ども観の変遷、保育の意義と目的、保育所などにおける保育・幼児教育の基本といった事項について、「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」を中心に、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などにも触れながら理解する。さらに、保育に関する法令及び制度や現在の保育を取り巻く現状と課題などについても必要に応じて取り上げていく。

RT 科目として受講する場合は、到達目標を達成するため、テキストを熟読し、指定された参考文献にも目を通し、保育についての基本的事項を理解するよう努めることが必要である。

SR 科目として受講する場合は、講義及びテキストの内容を理解し、到達目標を達成するために、1コマの授業に概ね1時間程度の予習・復習が必要であると考えている。ただし、受講生の既習事項の違いにより、予習・復習時間は異なってくる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子ども観について理解する。
2. 保育の意義及び目的について理解し説明できる。
3. 乳幼児期の子どもの保育・幼児教育の基本について理解し説明できる。
4. 保育の質の向上のための方法について理解し説明できる。
5. 保育の計画について理解し説明できる。
6. 保育に関する法令及び制度を理解する。
7. 子どもを取り巻く社会状況について考える。

■ 科目の学習要点事項

- ・講義、テキスト、参考文献の内容を、到達目標に沿って理解すること。
- ・テキスト、参考文献は、到達目標毎に章が構成されているとは限らないので、テキストや参考文献の内容全体を押さえた上で、レポート課題や科目終了試験に臨むこと。

参考文献

公益社団法人児童育成協会監修、天野珠路・北野幸子編『基本保育シリーズ①保育原理 第2版』中央法規、2017年

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』フレーベル館、2018年

厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』フレーベル館、2018年

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』フレーベル館
2018年

評価基準

■レポート評価

- ・レポート課題の内容にそったレポートとなっているか。
 - ・テキスト、参考文献の内容を踏まえたレポートとなっているか。
 - ・要点を要領よくまとめ、わかりやすく(論理的に)記述できているか。
- ※なお、以下のようなレポートは再提出となります。
- ・ほとんどテキストの写しであるレポート。
 - ・他の受講生のレポートと同じか、あるいは、ほとんど類似のレポート。

■科目終了試験評価

- ・設問にそった解答となっているか。
- ・授業内容、テキスト、参考文献の内容を踏まえた解答となっているか。
- ・要点を要領よくまとめ、わかりやすく(論理的に)記述できているか。

『新現代保育原理[第3版]』 柏原栄子・渡辺のゆり編著

2019年度～

科目概要

保育内容の必要性を知る。その際に保育内容とは何か、特に「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」に書かれている保育内容について知る。次に保育の形態について理解し、さらに保育計画の必要性と実際について知る。また、保育園、幼稚園と家庭、学校との連携についても知る。そして最後に保育者とはどういう存在か、次いで全ての基本となる保育思想について知る。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 保育内容とは何かを理解する。
2. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の保育内容とは何かを理解する。
3. 保育形態とは何かを理解し、その種類について知る。
4. 保育計画の必要性を理解し、その実際の内容を知る。
5. 保育園、幼稚園と家庭、学校との連携を理解する。
6. 保育者とは何かについて知る。
7. 保育思想家について知る。

■ 科目の学習要点事項

1. 保育内容とは何か。
2. 国の基準である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」から保育内容について学ぶことになる。
3. 保育形態にはどんな考え方から、どのような種類が考えられてきたかを学ぶことになる。
4. 保育園、幼稚園の保育は、家庭、学校との連携なしに考えられない理由とその方法を学ぶことになる。
5. 保育者とはどんな存在でどのような職務であるかを知り、学び続けることの重要性を知る。
6. 保育思想家の主張の中身を理解し、その歴史的背景を合わせて学ぶことになる。

参考文献

『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)

『保育所保育指針解説』(厚生労働省)

『幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう』(萌文書林)

評価基準

■レポート評価

1. テキストをよく読んで論理的にまとめられているか。
2. テーマに沿った内容であるか。
3. 自分の考えも加味されているか。
4. 他者のレポートの盗用は一切認めない。

■科目終了試験評価

1. 問題はレポート課題を含め、学習上の目標に掲載されている事項についてテキストから出題されているので、問題文をよく読んで、要求されていることを論理的に記述する。
2. 記述の内容と質で判断する。

使用テキスト

配本年度

『最新保育講座 6 保育方法・指導法』大豆右田啓友他著

2019 年度～2020 年度

『新しい保育講座 6 保育方法・指導法』大豆生田啓友・渡辺英則編

2021 年度

科目概要

先ず保育とは何かを考える。次に子どもの発達に応じた保育の方法について学ぶ。また、保育と子どもの環境について学ぶ。これらについて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を踏まえて学ぶ。次に保育の方法原理と形態について理解する。また保育方法の一端として保育所、幼稚園、認定こども園、家庭、学校との連携について知る。

スクーリングについては、テキストでは追いつけない最新の「保育と発達」についての研究成果を元に授業が行われる。単なるテキストの解説ではないことを、あらかじめご了承ください。詳細は、スクーリングの科目概要にてお知らせする。

なお幼稚園教諭免許状および保育士資格取得の上で必修科目となっている「保育原理」を先に履修することをお勧めする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 保育とは何かということを知り、発達に応じた保育方法について理解する。
2. 子どもの発達の意味と特徴を理解する。
3. 子どもの身の回りの環境と遊びの意味と意義を踏まえ、保育者としてどう指導するかを考えられる。
4. 保育形態とは何かを理解し、その種類を上げることができる。
5. 保育所、幼稚園、認定こども園と地域社会、家庭、学校との連携の意味を理解する。
6. 上記の内容を「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」と関連づけることができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 発達に応じた保育方法の観点から、改めて保育とは何かを学ぶ。
2. 保育形態にはどんな考え方から、どのような種類が考えられてきたかを学ぶ。
3. 保育所、幼稚園、認定こども園の保育は、地域社会、家庭、学校との連携なしには考えられない理由とその方法を学ぶ。
4. 年齢に応じた多様な保育方法を学ぶ。
5. 「保育と子どもの環境」について、環境を通して行う保育の方法から学ぶことになる。
6. 科目全体を通して、国の基準である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」から遊びを通じた総合的指導について学ぶ。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月』フレーベル館

厚生労働省『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月』フレーベル館

渡邊英則他『新しい保育講座① 保育原理』ミネルヴァ書房

園と家庭を結ぶ「元気」編集部『乳児の発達と保育』エイデル研究所

評価基準

■レポート評価

1. テキストをよく読んで論理的にまとめられているか。
2. テーマに沿った内容であるか。
3. 自分の考えも加味されているか。
4. 他者のレポートの盗用は一切認めない。
5. なおレポートの解説には、レポート作成前に必ず押さえておくべき内容の章を挙げてあるが、テキスト全体を学んでおくこと。

■科目終了試験評価

1. 問題は、レポート対象の章だけではなく、テキスト全体から出題されているので、問題文をよく読んで、要求されていることを論理的に記述する。
2. 記述の内容と質で判断する。

『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之 編著（教育芸術社）

2020年度～

科目概要

小学校音楽科を運営していくための、基礎的な知識と技能を学ぶ科目である。学習指導要領に則って音楽科の学習活動を立案する力を養い、授業では児童を適切に指導できるように、必要な実践力を身に付ける。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 小学校の音楽教科書に書いてあることを正しく理解する。
2. 低学年対象の音楽授業のイメージをもち、立案し実践できるようにする。

■ 科目の学習要点事項

1. 小学校学習指導要領第二章第六節 音楽に示されている内容の理解。
2. 児童の発声と歌唱の指導に関する正しい理解。
3. 打楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダーなど、小学校で多用される楽器の扱いと指導の正しい理解。
4. 音楽の要素や仕組みの正しい理解。
5. 4.に基づいた、歌唱と器楽の指導。
6. 4.に基づいた音楽づくり及び鑑賞の指導の正しい理解。

参考文献

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』文部科学省 平成29年

評価基準

■ レポート評価

1つの正解がある問題については、教科書を見ることにより正解が得られるので、正答を求めます。8割以下の出来では不合格です。

記述問題については、教科書の記述や楽譜を読んだり、音楽を YouTube など実際に聴いたりして、丁寧に学習したことが現れていれば合格です。

■ 科目終了試験評価

レポート課題とほぼ同じ問題が出題されます。レポートの学習がしっかりできていれば、合格できます。

使用テキスト

配本年度

『図画工作科指導法研究』

大学美術指導研究会 佐藤洋照・藤江充編著(日本文教出版)

2020年度～

科目概要

図画工作科は「表現」と「鑑賞」の活動を通して、児童それぞれの個性的なものの見方・感じ方・考え方・表し方に気付かせ、造形的な創造活動の基礎的な資質・能力、豊かな感性、情操を育てる教科である。すべての児童にその子なりの達成感を味わわせ、自己実現へと向かわせたい。その実現のための基本的な理念、指導の内容と方法、材料技法などについて、授業実践の様々な事例を調べることを通して主体的に研究することが重要である。SRによる受講では、事例研究に10時間以上を充てるのが望ましい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 学習指導要領に示された「表現(造形遊び、絵、立体、工作)」及び「鑑賞」の内容についての知識を身につけ、具体的な題材例をもとに理解を深める。
2. 各領域、各学年について多くの実践例を参照し、自らサンプル作品の作成を行い、「つくりだす喜び」を実感し、当該科目の意義と可能性を考察する。
3. 学習指導案の作成を重ね、児童の活動をイメージしながら、評価を含めた自身が行う授業について思考することができる。

■ 科目の学習要点事項

- 1、図画工作(美術/造形表現)教育の意義・目的
- 2、学習指導要領の理解(表現及び鑑賞の学習内容を含む)
- 3、図画工作科の授業(表現及び鑑賞)と学習指導案
- 4、美術科教育の歴史
- 5、子どもの成長・発達と表現活動
- 6、図画工作科の評価のあり方
- 7、造形表現の基礎知識(材料・用具・技法を含む)

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 図画工作編』日本文教出版、2018年

金子一夫『美術科教育の方法論と歴史(新訂増補)』中央公論美術出版、2003年

ふじえみつる『子どもの絵の謎を解く』明治図書、2013年

その他、テキストに列挙

評価基準

■レポート評価

- レポートの作成にあたっては、レポート課題に即した範囲のテキスト内容を的確に読解し、その範囲に該当する学習の要点事項に関する解釈が、所定の文字数でまとめられていること。
- 考察や私見が求められている課題の場合でも、記述内容が主観的に過ぎるものや、反対にテキストからの引用そのものは不合格とする。

■科目終了試験評価

- 科目終了試験は「科目の学習要点事項」に沿って広範囲に設定されるが、個々の設問についてはレポート課題の設定範囲に近い印象の場合もある。過去問や出題傾向を並べてみれば歴然としているが、「科目の学習要点事項」に示されている項目のそれぞれが個々の設問と捉えた要点を整理しておくこと。
- 評価のポイントは、出題の主旨に即した要点事項について、的確な用語が適正に用いられて論述できているかの程度によってなされる。

使用テキスト

配本年度

『初等家庭科教育』河村 美穂 編著(ミネルヴァ書房)

2021 年度～

科目概要

小学校家庭科の目標・内容を理解した上で、その趣旨を生かした指導ができるように理解を深める。題材についての考え方、学習指導、評価方法について理解し、学習指導計画の作成について学ぶ。さらに実践的で工夫された指導について考察を深め、児童が興味を持って主体的に関わる授業のあり方について考える。「その他必要である、または期待される主体的学びの概要」は、「家庭科の教師には日常生活の生活力が要求されるので、常に生活に関する知識や技術を積極的に身に付けるよう心がけること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ・家庭科教育における目標と学習指導や評価のあり方を理解できる。
- ・小学校家庭科における学習指導計画の作成について理解できる。
- ・実践的で工夫された指導について考察を深めることができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 家庭科教育における学習指導について
2. 家庭科教育における目標と評価について
3. 指導計画の考え方と題材構成の工夫
4. 小学校家庭科における学習指導計画について
5. 現代の社会・生活の変化と家庭科教育

参考文献

『小学校学習指導要領解説 家庭編—平成 29 年 7 月』文部科学省(東洋館出版社)

『新版 授業力UP 家庭科の授業』伊藤 葉子編著(日本標準)

『改訂版 家庭科の基本』流田直監修, 勝田映子他著(学研プラス)

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を正しく把握し、テキストだけでなく「小学校学習指導要領解説家庭編」についてもよく理解したうえで、その要点を中心に所定の文字数でまとめること。

■ 科目終了試験評価

学習要点にかかわるテキスト、「小学校学習指導要領解説家庭編」の内容をよく理解しておくこと。出題の主旨を理解し正確に説明できているか、解答として十分な分量があるかを評価する。長文であっても、出題の主旨から外れた解答の場合には評価されないので気をつけること。

使用テキスト**配本年度**

『新版 体育科教育学入門』 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖著(大修館書店) 2015年度～
※本科目のテキストカバーに『初等体育科教育法①』と記載されている場合がありますが、使用するテキストは上記の1冊のみとなります。

科目概要

初等体育科教育法は、小学校学習指導要領等についての理解を深め、子ども達に体育の持つ教育的価値を効果的に内面化させる方法について学習することをねらいとする。

体育科を担当するためには、どのような体育の科学的知識や実践的指導力が必要であるのかについて概説する。

学習上の目標**■ 科目の到達目標**

子ども達の特性を理解し、体育の授業実践に必要な体育科教育学の知識を学び、子ども達に体育の持つ教育的価値を効果的に内面化させる方法について理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 小学校学習指導要領体育編の内容について理解をすること。
2. 体育の学習内容及び指導・支援の内容及び指導技術等について理解を深めること。
3. 体育の単元計画作成や授業づくりについて理解をすること。
4. 体育教師に求められる能力について理解を深めること。

参考文献

『小学校学習指導要領の解説と展開・体育編』高橋健夫(教育出版、2008・初版第2版発行)

評価基準**■ レポート評価**

レポート課題が求める学習の要点を正しく理解すると共に、学習指導要領が求める趣旨を理解すること。また児童と各運動教材をどの様に結び付け、運動効果がどのようにしたら得られるのか等について作成されているかを評価する。

■ 科目終了試験評価

評価のポイントは、出題の趣旨を理解しキーワードや内容を正確に把握しているかである。科目の学習要点事項を踏まえて論述されていない場合は、自分の経験や自説を述べても評価の対象にはならない。

使用テキスト

配本年度

『道徳教育の指導法(小学校)』 佐々井利夫ほか著	明星大学出版部	2012年度～2017年度
『道徳教育と道徳科の授業展開』 小林幹夫ほか著	明星大学出版部	2018年度～

科目概要

小学校では平成30年度から道徳科(道徳の時間)が教育課程全体の中で明確に位置付けられた。道徳教育は、児童の健全な成長に欠くことができないばかりか、規律ある学級や人間関係づくり、問題行動の未然防止の要でもある。本科目では、小学校における道徳教育の基礎的な知識の習得と、道徳科の特質を生かした授業展開を学び、教師の資質と実践力を高める。

テキストによる学習を基礎とするが、理論的な面では「小学校学習指導要領」および「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」からの学びも大切となる。実践的な面では学年毎の実践記録集などを参照し、実践事例を積極的に収集し、自分自身の道徳授業作りを意識する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 道徳教育の必要性・道徳科(道徳の時間)の考え方について把握できる。
2. 小学校学習指導要領における道徳教育に関する考え方の理解が深まる。
3. 道徳科(道徳の時間)の目標・内容項目・評価の関連が認識できる。
4. 道徳科(道徳の時間)の指導法について知識・技術を深める。
5. 学習指導の実践例を学び、独自の教材開発ができるようになる。
6. 学習指導案の作成を通して、授業の進め方を把握・実践できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 道徳とは何か、道徳教育の基本的な考え方
2. 学習指導要領における道徳教育
3. 道徳教育の目標
4. 道徳教育の指導計画
5. 道徳科の目標
6. 学習指導の実践例
7. 学習指導案の書き方

参考文献

- ① 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省 HP よりダウンロード
- ② 『これからの道徳教育と「道徳科」の展望』赤堀博行監修 東洋館出版社 2016年
- ③ 『「資質・能力」を育成する道徳科授業モデル』白石範孝監修 学事出版 2017年

評価基準

■レポート評価

- ・配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や辞典および実践記録の類にも目を向けているかを評価する。
- ・テキストや参考文献などの記述を転記するのではなく、自己の見解を加味した自分の言葉で書き進めてあるか判断する。特に2単位目については、道徳科の特質を踏まえた学習指導過程や指導方法の工夫を加味した実践になっているかを評価する。
- ・理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。

■科目終了試験評価

- ・全ての回の科目終了試験に、2つの問題が示されている。両方の問題それぞれ解答してあること。
- ・テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、道徳教育の理念・目標・指導方法などが、正しく理解されているかを評価する。
- ・評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、理論的に順序立てられて記述されているか、道徳教育に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- ・論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。
- ・科目終了試験問題一覧の「解答上の注意」の条件を満たしていること。

使用テキスト

配本年度

『第2版 特別活動の展開』 鯨井俊彦編著(明星大学出版部)

2012年度～2018年度

『教科外活動の未来を拓く-特別活動と総合的な学習の時間の世界-』 吉富芳正、菱山覚一郎編(明星大学出版部)

2019年度～

科目概要

特別活動が各教科、道徳(特別の教科 道徳)外国語活動、総合的な学習の時間とともに小学校の教育課程の一領域を占めている意味、そして、それが各教科や道徳(特別の教科 道徳)などとは違った教育的意義を持つことを踏まえて、その実践的な理論と指導の基礎を学ぶことを目指す。つまり、特別活動の基本的性格とは何かを中心に学級や学校で展開されるすべての教育活動の再検討につなげて理解を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 特別活動とはその目標に「様々な集団活動」とあるように、一つの学級を単位とする集団や学級・学年の枠を超えたより大きい集団による活動をするところにその特徴がある。つまり、特別活動では実際の生活経験や体験による学習、「なすことによって学ぶ」(learning by doing)ことを通して、全人的な人間形成を図るという点を理解する。
2. 特別活動の内容である〔学級活動〕〔児童会活動〕〔クラブ活動〕〔学校行事〕のそれぞれが持つ固有の教育的価値について理解する。
3. 将来、学級担任になったとき、特別活動をどのような形で自らの学級経営に生かしていけるかを考える。

■ 科目の学習要点事項

1. 特別活動の目標、その教育的意義
2. 特別活動の歴史的変遷
3. 学級活動の内容
4. 児童会活動の内容
5. クラブ活動の内容
6. 学校行事の内容
7. 指導計画の作成と内容の取扱い

※これらの学習に当たっては、『小学校学習指導要領』の特別活動の目標、各活動・学校行事の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いを十分踏まえること。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』(東洋館出版社)

山口満、安井一郎 編著『改訂新版特別活動と人間形成』(学文社)

文部科学省/国立教育政策研究所 教育課程研究センター『特別活動指導資料 みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』(文溪堂)

評価基準

■レポート評価

レポートの作成に当たっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。その際、レポートの構成に当たっては、論理的に記述すること。『履修の手引』参照。

■科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい達成されているかを判定するためにある。出題範囲は広いが、それぞれの学習要点に関わるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかにある。特に、学習指導要領については、十分理解しておく必要がある。それらを踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されない。

したがって、試験の採点は、「出題の要点を正しく理解し、その要点に即して論理的に記述する」内容面と「量的にもある程度の分量を記述すること」の両面から採点を行うことにしている。

使用テキスト

配本年度

『追補 生徒指導—小学校—』 味形修(明星大学出版部)

2012 年度～2019 年度

『子どもとともに歩む 生徒指導』 味形修(明星大学出版部)

2020 年度～

科目概要

現代社会の価値観の多様化や私事化傾向のなかで、児童の家庭や社会における規範意識の変容から、学校教育における生徒指導の内容も多岐にわたり複雑化している。そこで「自己指導能力」の育成を積極的意義として捉える生徒指導の学校教育における位置づけを知る。指導において学級経営をはじめとする教師の活動を理解する。また、学校・家庭・地域の協働、連携による指導体制づくりが必要なことを理解し、将来の社会を担う児童の「生き方＝キャリア教育」も踏まえた、広い視野から生徒指導の意義・目的・内容を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 生徒指導の学校教育の位置づけなどの全体像を描く。
- ② 生徒指導の意義・目的・課題を把握する。
- ③ 現代社会における児童の成長の特徴を知り、現状を把握する。
- ④ 「生きる力」「自己指導能力」の必要性を吟味し、育成についての認識を高める。
- ⑤ 「消極的・積極的指導」「個別・集団指導」を理解し、「いじめの問題」をはじめ問題行動等の指導のあり方について学ぶ。
- ⑥ 学級経営における児童の成長を支援する活動のイメージを描き、小学校の生徒指導に重要な学級経営について理解を深める。
- ⑦ 学校内外の協働による家庭・地域との連携、体制づくりの認識を高める。
- ⑧ キャリア教育の意義や必要性を理解する。

■ 科目の学習要点事項

- ① 生徒指導の意義・目的・内容の把握、学校教育における位置づけ
- ② 児童の現状把握、行動などの特徴の理解
- ③ 「生きる力」「自己指導能力」の必要性、その指導について
- ④ 「自己の生き方＝キャリア教育」の理解
- ⑤ 児童の主な問題行動を把握し、対応・指導のあり方を知る
- ⑥ 学級経営と学校・学年目標、担任の仕事
- ⑦ 学校・家庭・地域の協働による連携

参考文献

- ①『生徒指導提要』(文科省、2011)
- ②『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編』(文科省)
- ③『子どもの「10歳の壁」とは何か?』(渡辺弥生、光文社新書、2011)
- ④『いじめを生む教室』(荻上チキ、PHP新書2018)
- ⑤『生徒指導リーフ』シリーズ(文部科学省、国立教育政策研究所)

評価基準

■レポート評価

- 課題の求めているものを把握、理解したうえで、できるかぎり実践的な指導例などを参考に、具体的指導のイメージを描き考えをまとめていること。
- 主観的な判断、考え方に偏った内容の場合は不合格とする。テキストなどの内容に沿って客観的な考察を心がけたうえで、自分の意見をまとめること。
- 制限字数に満たないものは不合格とする。
- 他人のレポートの内容に酷似していると判断できる場合は不合格とする。

■科目終了試験評価

- レポート作成での自学自習をしっかり行い、上述の学習要点の達成度、科目終了試験の出題の趣旨を理解して解答したかどうかを判定する。
- 出題範囲はテキスト全体に及ぶ。重要事項等の理解を深めておくこと。
- 自分の経験や体験を通じた確認は必要であるが、その内容や自説を述べても評価はできない。
- 重要事項や学習要点事項の語句、表現を使用するだけでは合格とはならない。それらの意味や概念を理解したうえで、考えを深めた点を判断する。
- 出題の意図を把握し、今までの学習の成果を試験の解答に期待する。

使用テキスト

配本年度

『教師のための初等教育相談～日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援～』

西本絹子著(萌文書林) 2015年度～2019年度

『教師のための教育相談～日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援～』

西本絹子著(萌文書林) 2020年度～

科目概要

1. カウンセラーとは異なる教師の行う教育相談の役割と特徴を理解し、教育相談の方法の基礎にある諸理論を学ぶ。
2. 幼児期から児童期までの子どもとその家庭に関する臨床的問題、及び現代の教育現場において大きな課題であるいじめ・不登校・発達障害などの諸問題に適切に対応するため、そのメカニズムと支援方法の基礎を理解する。
3. 貧困や孤立、虐待など多様な問題を抱える保護者・様々な困難を抱える子どもとのつながり方・理解の仕方の原則を理解し、内外の資源と連携しながら支援するための知識と技能を習得する。
予習・復習に必要な時間はそれぞれ1時間30分である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. カウンセリング・カウンセリングマインドに関する基礎知識を得る。
2. 高度専門職業人を目指す者として、学校教育における教育相談の重要性を理解し、教育相談に必要なカウンセリングマインドの姿勢と技能を身に付けることができる。
3. 幼児・児童・生徒やその保護者をめぐる、いじめ・不登校・発達障害・貧困・虐待などの多様な問題に対して、常に積極的に関心を向ける態度を身に付ける。
4. いじめ・不登校・発達障害・貧困・虐待などの多様な問題に対して、常に積極的に関心を向ける態度を身に付ける。
5. いじめ・不登校・発達障害・貧困・虐待などの多様な問題に対して、科学的な知識に基づいて思考し、支援方法について適切に判断することができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 今日、わが国の子どもと子育てをめぐる状況を広く理解し、そのなかで学校・教師に求められる役割を知る。
2. 教育相談の定義と学校教育における役割、教育相談の目的と内容、教師の行う教育相談とカウンセラーの行うカウンセリングとの違いを理解する。
3. カウンセリングの基礎と、カウンセリングの基本にある諸理論、カウンセリングマインドとカウンセリングの3原則を理解する。
4. カウンセリング・マインドを活かした聴き方の技法の基礎を理解する。
5. 保護者対応・面接の基本を理解する。
6. 発達の視点から子どもを理解する方法、子どもの問題のアセスメント(見立て)の方法、問題行動の捉え方について理解する。
7. 学校の病ともいえるいじめについて、いじめ問題の実態、病理の本質と発生のメカニズムを理解し、早期発

- 見・短期的対応方法、および予防・長期的対応方法の基礎を理解する。
8. 不登校について、その実態と背景にある病理のメカニズムを理解し、予防・初期対応・長期的対応方法の基礎を理解する。
 9. 発達の障害や偏りなど、特別な教育ニーズを抱える子どもたちへの教育に関する基礎知識と、その支援の考え方の基礎を理解する。自閉症スペクトラム障害・ADHD・LDのある子どもの理解と、教室における支援のポイントを理解する。
 10. 様々な困難を抱えた保護者への支援の方法の基礎を理解する。障害がある子どもの親の理解と支援の方法、無理難題を要求したり孤立している「困った親」の理解と支援の方法、家庭養育問題(貧困・虐待)の理解と支援の方法の基礎を理解する。
 11. 問題の対応に際して必要となる園内・学校内連携、学校外の諸資源との連携について理解する。

参考文献

- 1 西本絹子(編著)2008「学級と学童保育で行う特別支援教育」金子書房
- 2 菅野純(著)1995「教師のためのカウンセリング・ゼミナール」実務教育出版
- 3 菅野純(著)2001「教師のためのカウンセリング・ワークブック」金子書房
- 4 春日井敏之・伊藤美奈子(編著)2011「やわらかアカデミズム・わかるシリーズよくわかる教育相談」ミネルヴァ書房

評価基準

■レポート評価

*レポート記述に関して次の観点から評価する。

- ①テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
- ②課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。

*以下のようなレポートは再提出となる。

- ① 規程の分量が守られていない。
- ② ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
- ③ 他の受講生のレポートと同じかほとんど類似しているもの。
- ④ 誤字・脱字等が著しく多いもの、あるいは日本語の文章として逸脱しているもの。

■科目終了試験評価

*試験に関しては次の観点から評価する。

1. テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
2. 問題内容に的確に沿った解答であるか。
3. 誤字・脱字等がなく、読みやすい字で書かれ、日本語の文章として適切であるか。

使用テキスト

配本年度

『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法』 小田豊・中坪史典編（建帛社） 2012～2019 年度
『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法 第2版』 小田豊・中坪史典編（建帛社） 2020 年度～

科目概要

本授業は、教職に関する科目である「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」を「教育相談研究」と共に構成している幼稚園教諭免許状取得のための必修科目として位置づけられている。幼児の発達の姿については、保育学・心理学で取り上げられており、ここでは、集団の中での幼児の実態への理解を通じて幼稚園の中での育ちとはどういうことかとりあげる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

幼稚園の中での幼児の一人一人の実態、幼児同士、保育者と幼児といった集団の中での幼児の実態への理解を通じて幼稚園の中での育ちとはどういうことかを知る。

■ 科目の学習要点事項

1. 先ず実践例の挙げてある各章のダイジェスト(pp.5～6)を読み、p.1より読み進め、再び pp.5～6 を読んでほしい。
2. 実践編の各著者は、序章の理論的枠組みを共通な視点として認識している。しかし、実際に事例にそくして論ずる場合、各著者の長年の保育実践と研究の中から得た知見をもとに、それぞれの解釈、意味づけをしている。学習を進める中で、履修者は、それぞれの著者の論ずるところの基となる考え方をさぐりつつ、実践編各章の考え方の類似性と相違点を探ることが読み解く際の鍵となる。またそれを見出すと、新たな興味を持って事例を読み返したくなるであろう。
3. テキストをきちんと通して読んでから、レポートの課題に答えないと、結局のところ、科目終了試験で合格点を取得することは、難しいと考えてほしい。テキストをきちんと読み通してから、このレポートに取り組み、再読を繰り返すことを通して、試験問題の解答を作成することができるように出題してある。

参考文献

- ①鯨岡峻、鯨岡和子『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房
- ②『発達』第68号 -保育を開くためのカンファレンス-ミネルヴァ書房
- ③河邊貴子『遊びを中心とした保育 保育記録から読み解く「援助」と「展開」』萌文書林
- ④青木久子 他『子ども理解とカウンセリングマインド 保育臨床の視点から』萌文書林
- ⑤戸田雅美『保育をデザインする』フレーベル館

評価基準

■レポート評価

合格の基準は、ブラッシュアップの過程に基づいて、子どもに対する保育者の理解の変化を、学生の設けた視点に基づいて取り上げられていればよい。

■科目終了試験評価

試験問題で何が求められているかをよく考えて解答すること。用語の記憶の再現より幼稚園での幼児の理解がどれだけなされているかを見る。

『子どもと社会の未来を拓く－保育内容－総論』近藤幹生編著(青踏社)

2019年度～

科目概要

保育(内容)を総論的に捉えることについて学びます。乳幼児の遊びや生活場面の一つを考えてみても、複数の領域が絡み合い、総合性を持っています。保育実践においては保育内容の総合性を踏まえることが課題となり、各分野に関する専門知識・技術を身につけること、子どもや保育に関する幅広い視野を持つことが求められます。自分なりの子ども観・保育観の基礎づくりの糸口になる科目です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現在の保育所・幼稚園・認定こども園の制度と保育の営みとしての共通性を理解する
2. 保育・幼児教育の思想家たちの功績を学ぶ
3. 特色のある保育内容を学ぶ(戦前・戦後の保育内容の変遷)
4. 保育所・幼稚園・幼保連携型こども園の一日および多様な保育を理解する。(保育所保育指針、幼稚園教育要領を学ぶ)
5. 教育課程・全体的な計画(保育課程)と指導計画について学ぶ。
6. 園と家庭との信頼関係について学ぶ。
7. 保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題について理解する。
8. 地域の子育て支援のとり組みについて理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 現在の保育制度と保育の営みとしての共通性、各々の保育(一日)について
2. 保育・幼児教育の思想家たちの功績について
3. 戦前、戦後の特色ある保育内容
4. 教育課程(保育課程)と指導計画について
5. 保育所・幼稚園・小学との連携について
6. 地域の子育て支援のとり組み

参考文献

- ① 『保育所保育指針』(平成 29 年告示)厚生労働省
- ② 『幼稚園教育要領』(平成 29 年告示)文部科学省
- ③ 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成 29 年告示)内閣府、文部科学省、厚生労働省
- ④ 『安心感と憧れが育つひと・もの・こと』齊藤政子編著 明星大学出版部

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を正しく理解して、その要点をまとめ考察して述べられているか。他の受講生のレポートと同じか、ほとんど類似のレポートは不可。

『子どもと社会の未来を拓く－保育内容－総論』近藤幹生編著(青踏社)

2019年度～

科目概要

保育内容を総合的に捉えることについて学びます。乳幼児の遊びや生活場面の一つを考えてみても、複数の領域が絡み合い、総合性を持っています。保育実践においては保育内容の総合性を踏まえることが課題となり、各分野に関する専門知識・技術を身につけること、子どもや保育に関する幅広い視野を持つことが求められます。自分なり子ども観・保育観の基礎づくりの糸口になる科目です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現在の保育所・幼稚園・認定こども園の制度と保育の営みとしての共通性を理解する
2. 保育・幼児教育の思想家たちの功績を学ぶ
3. 幼稚園・保育所制度の歩みを理解する
4. 保育実践の歴史的背景を学ぶ
5. 乳幼児の発達と子どもの生活を理解する
6. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と保育の特質について学ぶ
7. 保育課程と指導計画について学ぶ
8. 園と家庭との信頼関係、保育所・幼稚園・小学校おける連携・接続の課題を理解する
9. 地域の子育て支援の取り組みを理解する

■ 科目の学習要点事項

1. 保育の営みについて
2. 保育・幼児教育の歴史
3. 乳幼児の発達について
4. 保育・教育課程と指導計画
5. 子育て家庭支援から見た保育の課題
6. 保・幼・小連携の課題
7. 特別支援教育

参考文献

- ① 『保育所保育指針』(平成 29 年告示)厚生労働省
- ② 『幼稚園教育要領』(平成 29 年告示)文部科学省
- ③ 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成 29 年告示)内閣府、文部科学省、厚生労働省
- ④ 『安心感と憧れが育つひと・もの・こと』齊藤政子編著 明星大学出版社

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を正しく理解して、その要点をまとめられているか
他の受講生のレポートと同じか、ほとんど類似のレポートは不可

使用テキスト

配本年度

『保育・教育ネオシリーズ⑰保育内容・人間関係 第二版』金田利子・齋藤政子(同文書院)

2012 年度～

科目概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に示されている 5 領域のひとつに「人間関係」が置かれている。人とかかわりが希薄であると言われる現代社会で、人との豊かなかかわりの基礎となる力を育むことが保育・教育の役割のひとつとして期待されている。現代の子どもを取り巻く環境を踏まえて、保育の今日的課題と領域「人間関係」のねらいと内容を理解するとともに、指導法を検討する実践力につなげる必要がある。

人と人との関係をつくりだす保育・教育の在り方に重点を置き、理論と実践を関連付けて考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域の関連について理解する
2. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。領域「人間関係」と他の領域との関係性を理解する
3. 乳幼児期の発達過程を理解し、保育・教育の場において人と豊かにかかわる力を育む方法を理解する
4. 人とかかわる力を育むための、人的環境としての保育者のあり方と、指導法を理解する
5. 子どもと子どもの関係、子どもと保育者の関係、個と集団の育ちに重点を置き、保育・教育の在り方を理解する

■ 科目の学習要点事項

1. 領域「人間関係」のねらいと内容について
2. 領域「人間関係」と他領域との関連性
3. 乳幼児期の発達と人間関係
4. 人とかかわる力を育む保育者の役割
5. 遊びと生活の中で育まれる人とかかわる力の育ち
6. 領域「人間関係」の指導と指導上の留意点

参考文献

『幼稚園教育要領解説』

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

『保育所保育指針解説』 ※いずれも平成 30 年 4 月 1 日施行版

評価基準

■ レポート評価

- ・作成に当たっては、課題が何を求めているかを的確に理解して記述すること。内容の重複は避け、限られた字数のため効果的な構成に心掛けること。
- ・要点を中心に所定の文字数(2000 字以上の解答)の記載があること。不必要な行の使い方はせず、学習の成果を有効にまとめること。
- ・内容が設問とずれていたり、引用の程度を越えたテキスト丸写しのもの是不合格とする。
- ・テキストの内容や持論をまとめるだけでは不十分である。根拠を明確に挙げつつ考察すること。

『保育・教育ネオシリーズ⑰保育内容・人間関係 第二版』金田利子・齋藤政子(同文書院)

2019年度～

科目概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の第1章の示されている幼児教育・保育において育みたい資質・能力を理解し、領域「人間関係」のねらいと内容と関連させて理解を深める。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえつつ、乳幼児の発達過程に応じた主体的・対話的で深い学びや具体的な指導方法を検討して保育を実践する力を身につける。

スクーリングに向けて、本科目の到達目標を達成するために十分な予習・復習の時間を確保し、テキストに加え幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説等を熟読し領域「人間関係」について理解をすること。また、領域「人間関係」のねらいと内容に関連する事柄に広く関心をもち考察すること。これらの取り組みの成果としてレポートをまとめること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 幼児教育・保育の基本的事項及び全体構造を理解する
2. 領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容を理解する
3. 他の人々と親しみ、支え合って生活する力をつけるために、乳幼児が経験して身につけていく事項と指導上の留意点を理解する
4. 乳幼児の発達過程を理解し、自立心を育て人と関わる力を養うための保育を構想する力が身につく
5. 人と関わる力を育むための、人的環境としての保育者の役割を理解する

■ 科目の学習要点事項

1. 領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容と他領域との関係性について
2. 「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」のねらい及び内容との関連について
3. 乳幼児期の人と関わる力の発達過程と保育者の役割
4. 遊びを通して育まれる人と関わる力について
5. 協同性について

参考文献

『幼稚園教育要領解説』

『保育所保育指針解説』

『幼保連携型認定こども園教育保育要領』

※いずれも平成30年3月出版のもの

■レポート評価

- 内容の重複は避け、効果的な構成で要点を的確にまとめること
- 不必要な行の使い方はせず、学習の成果を1,500字以上記載すること
- 内容が設問とずれている、論旨に一貫性がない、引用の程度を越えた丸写しがあるものは不合格とする
- 持論をまとめるだけでは不十分である。出典を明確にするなど、根拠を示しつつ考察すること

使用テキスト

配本年度

『子どもの育ちを支える子どもと環境』浅見均(大学図書出版)

2013年度～2019年度

『改訂版 子どもと環境』浅見均(大学図書出版)

2020年度～

科目概要

本授業は、保育士資格取得のために必要な「保育の内容・方法の理解に関する科目」に分類されている科目として位置づけられていると同時に幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である「教育課程及び指導法に関する科目」としても位置づけられている。ここでは、領域「環境」で示されているねらいと保育内容を理解する。加えて保育所・幼稚園における環境教育の意義について取り上げる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

保育所保育指針「保育の内容」と幼稚園教育要領「ねらい及び内容」のそれぞれの「環境」で示されているねらいと保育内容を理解することができる。

加えて教科書を中心に、保育所・幼稚園における環境教育の意義について考えることを通じて、保育内容を構成する上での基本的な考え方を持つことができる。

テキストの学習と共にスクーリングの受講を通じて、環境にかかわる保育のさまざまな教材を収集し製作するための素養を身につける。

■ 科目の学習要点事項

テキストにあるさまざまな子どもの活動を、可能な限り、体験しておくことよい。スクーリングの受講までになるべく多く体験しておくことが有効である。

☆ 学習するにあたって(1単位目)

テキスト第1章～第3章の2をきちんと通して読んでから、レポート課題に答えないと、合格点を取得することは、難しいと考えてほしい。

☆ 学習するにあたって(2単位目)

テキスト第3章の3～第4章をきちんと通して読んでから、レポート課題に答えないと、合格点を取得することは、難しいと考えてほしい。

参考文献

- ①『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』
- ②中沢和子『子どもと環境』萌文書林
- ③岡本 依子『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』新曜社
- ④田尻由美子・無藤隆『子どもと環境』同文書院
- ⑤仙田満『子どもとあそび—環境建築家の眼』岩波新書

■ レポート評価

・評価のめあて

全ての課題を通じて、自分の考えがきちんと明記されているかが問われる。

・課題ごとのめあて

【1単位目】

- 1.教科書第1章全体を手がかりにして、受講生独自にまとめているかどうか。
- 2.教科書にある保育内容の環境として挙げられている遊びを手がかりにして、幼児に提案する際の留意点も含めてまとめているかどうか。

【2単位目】

- 1.教科書第3章 2-2,3-1 を手がかりにして、子どもを取り巻く環境を踏まえて論じているかどうか。
- 2.第2章の子どもの育ちと第3章の4の思考の発達から年齢ごとに教科書の内容を写し取るのではなく、環境と関わることによる思考の発達、特に応答的環境の役割の視点からまとめられているかどうか。

使用テキスト

配本年度

『子どもの育ちを支える子どもと環境』浅見均(大学図書出版)

2019 年度

『改訂版 子どもと環境』浅見均(大学図書出版)

2020 年度～

科目概要

本授業は、保育士資格取得のために必要な「保育の内容・方法に関する科目」に分類されている科目として位置づけられていると同時に幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である「領域及び保育内容の指導法に関する科目」としても位置づけられている。ここでは、領域「環境」で示されているねらいと保育内容を理解するために、さまざまな教材を作成し、体験する。加えて領域「環境」を中心に総合的指導を意識して保育所・幼稚園における指導計画を設計し、模擬保育を実施する。また小学校の教科への接続について、学ぶ。さらに保育所・幼稚園における環境教育の意義について取り上げる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

保育所保育指針「保育の内容」と幼稚園教育要領「ねらい及び内容」のそれぞれの「環境」で示されているねらいと保育内容を理解することができる。

加えて教科書を中心に、保育所・幼稚園における環境教育の意義について考えることを通じて、保育内容を構成する上での基本的な考え方を持つことができる。またテキストの学習成果をもとにスクーリングの授業において、領域「環境」を中心とした総合的指導を意識した指導計画をたてた上での模擬保育とその振り返りを通じて、保育内容を構成する上での基礎的な能力を身につけることができる。

■ 科目の学習要点事項

テキストにあるさまざまな子どもの活動を、可能な限り、体験しておくことよい。スクーリングの受講までになるべく多く体験しておくことが有効である。

テキストによる学習の上で、スクーリングでは、次の2点について学習する。

1)環境に関わるさまざまな教材を収集・製作する。

2)領域「環境」を中心とした総合的指導を意識して、保育所・幼稚園における指導計画をたてた上での模擬保育を実施する。

☆テキストによる学習にあたって

テキスト第1章～第3章の2をきちんと通して読んでから、レポート課題に答えないと、合格点を取得することは、難しいと考えてほしい。

参考文献

- ①『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
- ②中沢和子『子どもと環境』萌文書林
- ③田尻由美子・無藤隆『子どもと環境』同文書院
- ④幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院
- ⑤無藤隆『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境』萌文書林
- ⑥平山許江『幼児教育知の探究 17 領域研究の現在〈環境〉』萌文書林

■ レポート評価

・評価のめあて

全ての課題を通じて、自分の考えがきちんと明記されているかが問われる。

・課題ごとのめあて

- 1.教科書第1章全体を手がかりにして、受講生独自の視点・考え方をもとにまとめているかどうか。
- 2.教科書にある保育内容の環境として挙げられている遊びを手がかりにして、幼児に提案する際の留意点も含めてまとめているかどうか。

使用テキスト

配本年度

『実践につなぐ言葉と保育 改訂版』近藤幹生ほか著(ひとなる書房)

2012年度～2020年度

『安心感と憧れが育つひと・もの・こと—環境との対話から未来の希望へ』齋藤政子編著

(明星大学出版部)

2021年度～

科目概要

乳幼児の発達全体をふまえながら、領域「言葉」の理解と考え方、言葉の発達と言葉を育てる保育のあり方、保育者の働きかけと言語環境、言葉と感性の問題等について理解する。その際、幼児期から小学校児童期への接続期の教育の現状も踏まえ、話し言葉から書き言葉への連続性と教育方法についても学習する。予習・復習に必要な時間は15時間です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 乳幼児の言葉の発達過程について理解する。
- ② 領域言葉の保育上の位置づけやねらい、保育内容について理解する。
- ③ 大人の働きかけのあり方や言語環境について理解する。
- ④ 児童期の言葉の育ちを支える言語環境や保育方法について理解する。

■ 科目の学習要点事項

- ① 乳幼児の発達過程全体をおさえること、特に乳児期の言葉の発達についても学習すること。
- ② 言語環境は、家庭、保育園、幼稚園のあらゆる場を想定して考えること。

参考文献

- ①『子どもが育つ言葉かけ』増田修治(ひとなる書房)
- ②『ことばの前のことば』やまだようこ(新曜社)
- ③『事例で学ぶ保育内容・言葉』無藤隆監修高濱裕子編著(萌文書林)
- ④『実践につなぐ ことばと保育』近藤 幹生ほか著(ひとなる書房)
- ⑤幼稚園教育要領・保育所保育指針

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用しながら、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること。
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること。
- ・誤字脱字がないこと。
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること。
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。

使用テキスト

配本年度

『実践につなぐ言葉と保育 改訂版』近藤幹生ほか著(ひとなる書房)

2019年度～2020年度

『安心感と憧れが育つひと・もの・こと—環境との対話から未来の希望へ』齋藤政子編著

(明星大学出版部)

2021年度～

科目概要

乳幼児の発達全体をふまえながら、領域「言葉」の理解と考え方、言葉の発達と言葉を育てる保育のあり方、保育者の働きかけと言語環境、言葉と感性の問題等について理解する。その際、幼児期から小学校児童期への接続期の教育の現状も踏まえ、話し言葉から書き言葉への連続性と教育方法についても学習する。予習・復習に必要な時間は15時間です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 乳幼児の言葉の発達過程についての知識が身につく。
- ② 領域言葉の保育上の位置づけやねらい、保育内容について理解する。
- ③ 大人の働きかけのあり方や言語環境について考えることができる。
- ④ 児童期の言葉の育ちを支える言語環境や保育方法についての技能や判断を身につける。

■ 科目の学習要点事項

- ① 乳幼児の発達過程全体をおさえること、特に乳児期の言葉の発達についても学習すること。
- ② 言語環境は、家庭、保育園、幼稚園のあらゆる場を想定して考えること。

参考文献

- ①『実践につなぐ ことばと保育』近藤 幹生ほか著(ひとなる書房)
- ②『ことばの前のことば』やまだようこ(新曜社)
- ③『事例で学ぶ保育内容・言葉』無藤隆監修高濱裕子編著(萌文書林)
- ④『子どもとことば』岡本夏木(岩波新書)
- ⑤幼稚園教育要領・保育所保育指針

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用しながら、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること。
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること。
- ・誤字脱字がないこと。
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること。
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。

科目概要

初等教育課程とは、幼児・児童の学習活動を踏まえて教育内容を体系立てて配列し、それによって学校教育の全体を現したものと見える。これを具体的に言えば、教師一人ひとりの、一つひとつの教育活動を学校教育全体の中に位置づけ、その教育活動に方向性を与えると同時に、逆にその教育活動によって組み立てられているものである。

『学習指導要領』(平成29年3月告示)では「第1章総則 第1 小学校教育の基本と教育課程の役割」として「1 各学校においては、教育基本及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする」。また、『幼稚園教育要領』においても、「第1章総則 第1 幼稚園教育の基本」の「第3 教育課程の役割と編成等 1 教育課程の役割」において「各幼稚園においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの幼稚園教育要領の示すところに従い、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする。」としている。

教育課程は、学習指導要領を基準(大綱的基準)としながら、各学校において編成するものである。そして編成とは、教育(内容)計画を、学校の仕事の個々(指導計画)または全体(教育課程)にわたって立案(構成)することと捉えることができる。つまり学習指導要領は、文科省が定め、子どもたちに授業などを行なう時の基準であり、また、国家が目指す人材の育成にもかかわる。そして、学校は学習指導要領に沿いながら教育の指導方針を定め、それを基に校長は授業時数等を決定し、その授業時数の中で「学習指導要領」の基準に従いながら、社会に求められる人材を教師が中心となって育成していく。

したがって日本においては、学習指導要領の歴史は教育課程の歴史といっても過言ではない。また、教育基本法や学校教育法なども同じように教育課程の性格に重要な影響を与えている。学習指導要領は、今まで8回にわたり改訂されてきたが、これらの改訂は中央教育審議会答申や教育基本法の改正を受けて行なわれてきたことに加えて、時代の流れや社会情勢、子どもの実態をもとにして教育のあるべき姿を反映させることで改訂されてきたととらえることができる。その意味で、学習指導要領の特徴を知ること、その時代の教育課程がどんな風であったかが理解でき、その頃の教育のあり方を知ることができる。

このことを踏まえて、ここでは学校教育における教育課程のもつ今日的意義を考える。教育課程が初等教育の歴史の中でどのように形成されてきたか、どのように解釈されているか等を中心に、教育課程の成立史やその基礎理論(思想と構造)を扱う。また、日本では教育課程の基準として学習指導要領が定められているが、その変遷(改訂)、性格、特徴などを明らかにする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育課程(カリキュラム)に関する基本的な用語・知識・教育課程編成のわが国における歴史的変遷、新しい教育課程の開発や編成に関する基本問題を説明できる。
2. 戦後 20 年代の「新教育」のカリキュラム改革の特色、昭和 33 年以降の学習指導要領改訂版(昭和 33 年、43 年、52 年、平成元年、10 年、20 年の改訂版)に現れた顕著な特色について説明できる。
3. 教育課程の評価にはどのような意義・領域・役割があり、教育課程の評価をどのように用いるべきなのか、その評価の要点は何なのか、などを説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育課程(カリキュラム)の意義(定義)
2. 各年版の学習指導要領の特徴
3. 教育課程の評価

参考文献

『小学校学習指導要領』文部科学省(東洋館出版社)平成 29 年3月告示

『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省(東洋館出版社、平成 30 年 2 月発行)

田中耕治ほか編著(2009)『新しい時代の教育課程(改訂版)』有斐閣

天笠茂(2013)『カリキュラムを基盤とする学校経営』ぎょうせい

田村知子(2011)『実践・カリキュラムマネジメント』ぎょうせい

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。その際、レポートの構成にあたっては、論理的に記述すること。例えば、起・承・転・結や序論・本論・結論など、筋道立てて作成するようにしてください。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい達成されているかを判定するために行うものです。出題範囲は広いが、それぞれの学習要点に関わるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくことが大切です。評価のポイントは、出題の主旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができていのかどうかを中心に評価します。科目の学習要点事項を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されません。

したがって、試験の採点は、設題の要点を正しく理解し、その要点に即して論理的に記述すること、またある程度の量的な記述がなされていること、との両面から採点を行います。

使用テキスト

配本年度

『子どもと社会の未来を拓く-保育内容-総論(初版)』(青踏社) 近藤幹生編著

2019年度～

科目概要

保育(内容)を総論的に捉えることについて学びます。乳幼児の遊びや生活場面の一つを考えみても、複数の領域が絡み合い、総合性を持っています。保育実践においては保育内容の総合性を踏まえることが課題となり、各分野に関する専門知識・技術を身につけること、子どもや保育に関する幅広い視野を持つことが求められます。どのような保育を大切にしたいのか、自分なりの子ども観、保育観の基礎づくりの糸口になる科目です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

保育士として培ってきた保育観、子ども観を改めて振り返り再構築するための知識・子ども理解、そして現代の保育課題等々理解し更に充実した保育をしていくための力量を身に付けている。

■ 科目の学習要点事項

○保育所保育指針における保育の基本 ○保育所・幼稚園・認定こども園の現状と課題 ○保育・幼児教育の思想家たちの功績 ○幼稚園・保育所制度の歩み ○特色のある保育内容を探る-戦前・戦後の保育内容の変遷
○保育所の一日-保育所で展開される生活と遊び ○幼稚園の一日-幼稚園で展開される生活と遊び-
○幼児連携型こども園の一日および多様な保育 ○教育課程・全体的な計画(教育課程)と指導計画について
○園と家庭の信頼関係 ○保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題 ○地域の子育て支援のとり組み-
-子育て支援と保育内容-

参考文献

- ①『安心感と憧れが育つ ひと・もの・こと』齋藤政子編著
- ②『集団保育とこころの発達』近藤繁樹著 新日本出版
- ③『日本における保育カリキュラム 歴史と課題』宍戸健夫 新読書社

評価基準

■ レポート評価

テキストを読み、学習したうえで、レポート課題に向き合い私見が述べられているか。

■ 科目終了試験評価

テキストを基礎とした学習が進められ、理解されているかを評価する。

また、上記に加えて論述の論理的展開や考察が適切かどうかについても評価する。

使用テキスト

配本年度

『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法』 小田豊・中坪史典編 (建帛社)2015 年度～2020 年度
『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法 第2版』小田豊・中坪史典編 (建帛社) 2021 年度～

科目概要

本授業は、特例による幼稚園教諭免許状の取得に関わる「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」を構成している必修科目として位置づけられている。幼児の発達の姿については、保育学・心理学で取り上げられており、ここでは、集団の中での幼児の実態への理解を通じて幼稚園の中での育ちとはどういうことかとりあげる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

幼稚園の中での幼児の一人一人の実態、幼児同士、保育者と幼児といった集団の中での幼児の実態への理解を通じて幼稚園の中での育ちとはどういうことかを知る。

■ 科目の学習要点事項

1. 先ず実践例の挙げてある各章のダイジェスト(pp.5～6)を読み、p.1より読み進め、再び pp.5～6 を読んでほしい。
2. 実践編の各著者は、序章の理論的枠組みを共通な視点として認識している。しかし、実際に事例にそくして論ずる場合、各著者の長年の保育実践と研究の中から得た知見をもとに、それぞれの解釈、意味づけをしている。学習を進める中で、履修者は、それぞれの著者の論ずるところの基となる考え方をさぐりつつ、実践編各章の考え方の類似性と相違点を探ることが読み解く際の鍵となる。またそれを見出すと、新たな興味を持って事例を読み返したくなるであろう。
3. テキストをきちんと通して読んでから、レポートの課題に答えないと、結局のところ、科目終了試験で合格点を取得することは、難しいと考えてほしい。テキストをきちんと読み通してから、このレポートに取り組み、再読を繰り返すことを通して、試験問題の解答を作成することができるように出題してある。

参考文献

- ①鯨岡峻、鯨岡和子『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房
- ②『発達』第68号 -保育を開くためのカンファレンス-ミネルヴァ書房
- ③河邊貴子『遊びを中心とした保育 保育記録から読み解く「援助」と「展開」』萌文書林
- ④青木久子 他『子ども理解とカウンセリングマインド 保育臨床の視点から』萌文書林
- ⑤戸田雅美『保育をデザインする』フレーベル館

評価基準

■ レポート評価

合格の基準は、ブラッシュアップの過程に基づいて、子どもに対する保育者の理解の変化を、学生の設けた視点に基づいて取り上げられていればよい。

■ 科目終了試験評価

試験問題で何が求められているかをよく考えて解答すること。用語の記憶の再現より幼稚園での幼児の理解がどれだけなされているかを見る。